

令和 8 年度 阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

No	図 面 名 称	No	図 面 名 称
	表紙・図面リスト		
T-01	木造特記仕様書 1	E-01	特記仕様書（電気）
T-02	木造特記仕様書 2	E-02	電灯盤図
T-03	木造特記仕様書 3	E-03	機器姿図
T-04	地盤改良事業 特記仕様書	E-04	電灯・コンセント設備図
A-01	設計概要書、内外仕上表、付近見取図	E-05	トイレ呼び出し装置設備図
A-02	配置図・仮設計面図		
A-03	平面図	M-01	衛生機器・器具設備図
A-04	立面図	M-02	屋外衛生設備図
A-05	天井伏図	M-03	衛生設備図
A-06	屋根伏図	M-04	換気・暖房設備図
A-07	矩計図		
A-08	展開図 1		
A-09	展開図 2、建具キープラン		
A-10	建具表、サイン詳細図		
A-11	地盤改良図、基礎配筋詳細図		
A-12	基礎伏図、土台伏図		
A-13	梁桁伏図、小屋伏図		
A-14	木造壁量計算		

0 0 特記仕様書の取扱いについて		1. 記載されていない事項は、国土交通大臣官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（最新版）及び住宅金融公庫監修「木造住宅工事共通仕様書」（最新版）による。		2. ■（□を黒く塗りつぶしたの）を特記事項として採用する。		3. その他の記載事項は、（ ）内に記載する。	
0 1 一般共通事項		1. 適用範囲		■本特記仕様書は、各仕様書及び補足事項に記載なき事項を特記するものであり、各工事において、他の工事との関連ある事項は、各々該当の記載事項を参照する。			
2. 質 疑		■本工事の設計図書に関する質疑は、工事契約前に、質疑応答書をもって確かめておくものとする。					
3. 優先順位		■設計図書に記載なくとも、施工上、構造上、納まり上当然必要と認められるもの（下地材、補強材、シール材等）図中記載なくとも監督員の指示に従い、請負金額の範囲内において施工するものとする。					
4. 材料試験		■本工事の設計図書等の優先順位は、下記による。					
5. 提出図書		■本工事の施工に伴う、提出図書は、下記「■」に定める他、必要に応じて監理者と協議の上、作成するものとする。なお、提出部数は指示によること。					
		提出図書		提出期限		備 考	
		■ 工事請負契約書		契 約 時			
		■ 工事工程表		契約後速やかに			
		■ 現場代理人及び主任技術者届		〃		工事経歴書	
		■ 協力業者名簿		〃			
		■ メーカーリスト		〃			
		□ 仮設計図書		〃			
		■ 施工図・製作図		実施15日前		各工事毎	
		■ 工事工程報告書		1ヶ月毎		工事進捗表、写真	
		■ 打合議事録		その都度			
		■ 変更工事見積書		〃			
		■ 出来高承認願		〃			
		■ 官公署提出書類控		〃			
		■ 材料試験報告書		試験後10日以内			
		■ 工事竣工届		竣工時			
		■ 工事竣工引渡書		〃			
		■ 工事竣工図		竣工時より30日以内			
		■ 工事竣工写真		〃		カラーキャビネット版	
		■ 工事保証書		竣工時			
		■ 鍵		〃		キーボックス大サ-	
		■ 工事写真は、「工事写真の撮り方ー建築編」《（社）公共建築協会発行》により明確に撮影し、市販品の工事用アルバムに整理し提出する。					
		■ 竣工写真は、アルバム2部、電子データ（CD）2部提出（提出先：発注者×1、監理者×1）（アルバム：900×300 表紙及び台紙：黒色、電子データ：RGB 78bit）JPEG形高画質）					
		■ 竣工写真はキャビネットおよび電子データとする。撮影位置は打合せによる。（内部：6ヶ所 外部：3ヶ所 夜間：0ヶ所）					
		■ 竣工写真：1カットを786領域（外寸386×336程度）に収め2部提出する。（複製：発注者×1、監理者×1）					
		■ 竣工写真の著作権は発注者並びに設計事務所、監理事務所、施工会社に係属する。					
		■ 工事竣工図は、表紙文字入り製本とし、1部提出する。（A3二つ折綴り：図説×1、監理者×1）					
		■ 工事竣工図は、表紙文字入り製本とし、1部提出する。（A3二つ折り）					
		■ 工事竣工図の製本、提出については、打合せによる。					
		■ 工事竣工図の製本、提出については、打合せによる。					
		■ すべての施工図他関連資料も含めて製本し、2部提出する。（A3二つ折り）					
6. 定例打合会議		■ 工事の円滑な進行を計るため、監理者の指示により、工事期間中は、定期的に各工事責任者を召集し、打合せを行うものとする。					
		■ 請負者は、定例打合会議 議事録をとり、その都度監理者の承認を得るものとする。					
7. 設計変更		■ 設計変更を生じたときは、原則として、あらかじめ見積書を提出し、承認された上で変更工事に着手すること。その場合は特記なき限り各工事項目とも契約時の単価により承認する数量で請負金額の増減を行う。ただし、軽微な変更は、監理者の指示によって行うも請負金額の増減は、行わない。					
8. 既設部分との取合		■ 既設外構と今回工事の取合部分、その他でハツリ及び工事の都合などにより破壊、損壊させた部分は、今回工事仕上及び、旧工事、仕上同材にて完全に補修しなければならない。					
9. 別途工事		□ 別途工事についての工事工程ならびに、納まり等に関して、別途工事業者と密接に連絡をとり、調整に当たらなければならない。					
10. 工事保証その他		■ 建物引渡し後工事不良のため、生じたと認められる損害は、請負者の負担にて、敷通工事に償還する。その期間は保証書による。					
		■ 本工事施工に際しては、本工事場所が、工事による騒音、振動などについて地域規制されていないかを確認し、規制されている場合は、規制に従って、施工計画を立て、関係官庁の指導を受ける。					
0 2 仮設工事		1. 仮 囲 い					
		■ 仕 様： 仕様について具体的には指示しない。但し安全が確保できる仕様とし、計画図を作成、監督員の承認を得なければならない。					
		□ 構 造： □鋼板製 □木 □ネットフェンス □その他（ 任 意 ）					
		□ 高 さ： □1.5m □1.8m □3.0m以上					
		□ 仕 上： □仕上なし □ペイント仕上 □その他（ 任 意 ）					
		■ 範 囲： ■道路樹及び安全上必要と思われる範囲とする □指示					
2. 現場事務所		■ 現場事務所に係わる経費用は、一切請負者の負担とする。					
		仕様等については仮囲いの扱いと同じ					
		□ 構 造： □プレハブ造 □木造 □その他（ ）					
		□ 規 模： □10㎡以上 □20㎡内外 □35㎡以上					
		□ 備 品： □椅子 □机 □書類及び図面棚 □テストハンマー □ロッカー □米客用ヘルメット □その他（ ）					
		□ 設 備： □照明 □給排水 □給湯 □電話 □FAX □冷蔵庫 □消火器 □エアコン □その他（ ）					
3. 看 板		■ 本工事現場に提示する看板は、大きさ、書体、仕上材、取付位置などについて監理者と協議する。					
4. 工事用水		□ 利用できる（ □有償 □無償 ） ■ 利用できない					
5. 工事用電力		□ 利用できる（ □有償 □無償 ） ■ 利用できない					
6. 障害物の処理		■ 工事に撤去、移設を要するものは、本工事の範囲とする。					
7. 設計 G L		■ 標準 G L の決定及び、B M は、建築主及び監理者の立会いの上確認する。（敷地現況測量の B M 確認）					
8. 保護設備		■ 本工事の施工にあたり、付近住民、隣接建物、工作物、通行人に対して損害を与えないように、必要な保護設備を計画し、監理者及び各関係者の承認を得て実施する。万一損害を与えたときは、速やかに対応手当、復旧工事をし、これに要した費用は、すべて請負者の負担とする。					
		■ 工事完了後、建物引渡し前に全体の掃除を行い、公道の本工事起因する損傷物は完全に復旧する。					
0 3 土工事・基礎工事		1. 根 切 り					
		■ 床付け面は、地盤を撹拌しないようにして平らに仕上げる。					
		■ 根切り完了後、深さ、大きさ、床さらいの状態について、監理者の承認を得るものとする。又、床付け面の写真を撮影しておくこと。					
		□ 移 設（移設場所： 敷地内 ）					
		□ 伏探検					
		■ 根切り土使用					
		□ 根切り土を使用しないで良質の真砂土を搬入する。					
		■ 瓦くず、木片、岩塊などが混入することがないように注意し、厚さ200mm以内ごとにランマーなどの機器により締め固める。					
4. 地 均 し		■ 建物周囲2.0mまでの部分は、設計 G L の高さで地均しを行い、残材などを撤去し、水はけのよい勾配に仕上げる。					
5. 残土処分		■ 場外搬出					
		□ 場内敷き均し					
		□ 場内指定場所に堆積（指定場所： ）					
		□ その他（ ）					
6. 地耐力試験		□ 実施する ■ 実施済み ■ 不要					
		■ スウェーデン式サウンディング試験 □ 平板載荷試験					
		□ 標準貫入試験 □ その他（ ）					
7. 地 案		■ 設計長期支持力 20kN/㎡					
		■ 地案の種類は以下により厚さは、100mm以上とする。					
		□ 割栗石 □ 砂利 ■ 砕石 ■ 再生砕石					
8. 捨てコンクリート地案		□ 地盤改良なし ■ 地盤改良あり（別紙参考）					
		■ 厚さ 50mm					

0 5 木造躯体工事					0 6 屋根工事				
1. 土 台	■土台の断面寸法は、柱と同じ寸法とする。 ■継手は、柱の位置を避け腰掛けあり継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。	15. 筋 かい 端 部 の 仕 口	■筋かいの端部における仕口は、筋かいの種類に応じて、次の接合方法によるか又はこれらと同等以上の引張耐力を有する接合方法による。 □厚さ30mm以上で幅90mm以上の木材による筋かいの場合 筋かいプレート（厚さ1.5mmの鋼板添え板）を筋かいに対して六角ボルト（M12）（JIS B1180（六角ボルト））に規定するうち強度区分4.6に適合する径12mmのボルト又はこれと同等以上の品質を有するものをいう。以下同じ。）締め及びCN65釘（長さ65mmの太め鉄丸くぎ、以下同じ。）を3本平打ち、柱に対してCN65釘を3本平打ち横架材に対してCN65釘を4本平打ちとしたもの。 ■厚さ45mm以上で幅90mm以上の木材による筋かいの場合 筋かいプレート（厚さ2.3mmの鋼板添え板）を、筋かいに対して六角ボルト（M12）締め及び長さ50mm、径4.5mmのスクリークぎ（以下「スクリークぎ」という。）7本の平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれスクリークぎ5本の平打ちとしたもの。 □厚さ90mm以上で幅90mm以上の木材による筋かいの場合、別途指示する。	16. 耐力壁となる軸組の柱と横架材の仕口	■軸組の柱の柱脚及び柱頭の仕口は、平12被告第1460号による。	1. 屋根工事一般	■アスファルトルーフィングはJISA6505（アスファルトルーフィングフェルト）に適合するアスファルトルーフィングは940以上とする。 □合成高分子系ルーフィングは、JISA6008（合成高分子系ルーフィング）に適合するものとし、種類は特記による。 ■アスファルトルーフィングのふき方は次による。 ■野地面上に軒先と平行に敷込むものとし、上下（流れ方向）は100mm以上、左右は200mm以上重ね合わせる。 ■留めつけは、重ね合せ部は間隔300mm内外に、その他は要所をタッカー釘などで留めつける。 □合成高分子系ルーフィングのふき方は、各製造所の仕様による。	13. 責任保証	□工事請負者及び防水工事施工会社は、記名捺印の上、下記保証機関の保証書を2部監理者へ提出するものとし、保証期間内に事故が生じた場合は、無償にて補修復旧を行うこととする。 □アスファルト防水 10年間 □防水モルタル 5年間 □シート防水 10年間 □その他（ ） 年間 □塗布、塗膜防水 5年間
2. 火 打 土 台	□火打土台は次のいずれかによる。 □木材の火打土台とする場合は、断面寸法は、45mm×90mm以上とする。 □鋼製火打の使用可	17. 耐力壁でない軸組の柱と横架材の仕口	■柱の端部と横架材との仕口（すみ柱と土台の仕口は除く。）は次のいずれかによる。 ■柱の上下端とも短ほど差しとし、山形プレートを当て釘打ちとする。 ■柱の上下端とも短ほど差しとし、かど金物を当て釘打ちとする。 ■柱の上下端とも長ほど差しとし、込みせん打ちとする。 ■柱の上下端とも短ほど差しとし、ひら金物を当て釘打ちとする。 ■柱の上下端とも短ほど差しとし、かすがい打ちとする。 ■すみ柱と土台との仕口は次のいずれかによる。 ■短ほど差し又は短ほど差しとし、かど金物を当て釘打ちとする。 ■長ほど差しとし、込みせん打ちとする。 ■短ほど差し又は短ほど差しとし、かすがい打ちとする。 ■短ほど差し又は短ほど差しとし、ホールダウン金物を用いて緊結する。 ■土台木口と隅柱との取り合いを落しありとする場合は、かど金物を両面に当て釘打ちとする。 ■上記の同等以上の緊結が保たれる方法で監理者と協議する。			2. 金属板ぶき一般	■金属板の品質は、JISの規定に適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 ■金属板の板厚は、図示による。 ■施工方法は採用メーカーの仕様による。施工計画書を提出し、監理者の承諾を得る。 ■金属板の折り曲げは、次による。 ■加工は、原則として機械加工とし、差損に損傷や剥離が生じないよう折り曲げる。 ■差損の損傷の損傷部分の補修については、各製造所の仕様による。	14. シーリング材	■外部遮熱膜 ■ポリサルファイド系 □実成シリコン系 □ウレタン系 □シリコン系 □その他（ ） ■コンクリート打ねじ目地 ■ポリサルファイド系 □実成シリコン系 □ウレタン系 □シリコン系 □その他（ ） ■シーリング材の充填は、9mm×9mmを最小とし、ボンドブローカー又はバックアップ材を使用する。
3. 大 引	□継手は、床づか心から150mm内外持ち出し相欠き継ぎのうえ、N75釘2本打ちとするか又は腰掛けあり継ぎとする。 □仕口は次による。 □土台との取合いは、大入れあり掛け、腰掛け又は乗せ掛けとし、いずれもN75釘2本斜め打ちとする。 □柱との取合いは、添本を柱に取り付けたのち、乗せ掛けとするか、柱に大入れとし、いずれもN75釘2本を斜め打ちとする。					3. か わ ら 棒 ぶ き	□屋根一般部分は次による。 □かわら棒の間隔は、350mmを標準とする。 □心木は、下ぶきの上からたる木に打留める。 □上記に用いる釘の長さは、38mm以上とする。釘打ち間隔は、軒先、けらば及びむね附近では200mm以内、その他の部分は450mm以内とする。	15. 硬質塩化ビニル雨樋	■軒樋の工法は、次による。 ■軒樋は、専用の継手を用い、接着剤を併用して接合する。接合した軒樋の長さは一般部分は10m以内とし、10mを超える場合は、有効な伸縮継手を設ける。 曲線部分は900以下（≧830）で継手を設け、多角形で施工する。 ■軒樋の受金物は、軒樋に合った形状寸法のものの間隔700mm程度に、たる木または鼻かくしに取りつける。受金物の鉄部は溶融亜鉛めっきを行う。 ■軒樋の取付けの勾配は1/200以上とする。 ■軒樋は、伸縮を妨げない程度に受金物に緊結する。 □堅樋の工法は、次による。 □堅樋の受金物は、堅樋に合った形状寸法のものの間隔1000mm以下に取りつける。 受金物は、ステンレス製又は鉄部に溶融亜鉛めっき（ドブ塗）を行ったものとする。 □堅樋には、各受金物ごとに、樋と同質材で下がり止めを接着剤で取りつける。
4. 床 づ か	□上部仕口は、次のいずれかによる。 □大引に突付けとし、N75釘を斜め打ちのうえ、ひら金物を当て釘打ち又はかすがい打ちとする。 □大引へ一筋びんた延ばしとし、N65釘2本を斜め打ちする。 □大引に目違いほぞ差しとし、N75釘2本斜め打ちとする。 □下部は、つか右に突付けとし、根がみき床づかに添えつけ釘打ちとする。	18. 小屋 ば り	□末口135mm以上の丸太の継手は、受材上で台持継ぎとし、下水にだぼ2本を揃込み、かすがい両面打ちとするか又は六角ボルト2本締めとする。受材当たりは渡りあごととし、手ちがいがかすがい打ちとする。 □末口135mm以上の丸太の継手は、受材上でやりちがいとし、六角ボルト2本締めとする。受材当たりは渡りあごととし、手ちがいがかすがい打ちとする。 ■軒げた又は敷けたとの仕口は、かぶとあり掛け又は渡りあごととし、いずれも羽子板ボルト締めとする。			4. 一 文 字 ぶ き	□屋根一般部分は次による。 □ふき板の四周は直はぜとする。下はぜは18mm、上はぜは15mm程度とする。 □つり子は、ふき板と同じ材で、幅30mm長さ70mmとする。 □つり子は、野地板に打留めとする。取付け箇所は、ふき板1枚につき2箇所以上とする。 □隣り合ったふき板は、一重はぜ継手とし、千鳥に設ける。	16. 金属板雨樋	■軒樋及び縦樋の工法は、共通仕様書による。
5. 根 太	□継手は、受材心で突付け継ぎとし、N90釘を平打ちする。 □はり又は大引きとの取合いは、腰渡しとし、N75釘2本斜め打ちとする。ただし根太のせいが90mm以上の場合は、大入れ又は渡りあご掛けとし、N75釘2本打ちとする。	19. 小 屋 束	■上部・下部の仕口は、短ほど差しとし、かすがい両面打ち又はひら金物当て釘打ちとする。			5. 堅 は ぜ ぶ き	■堅はぜぶきの構法は、各製造所の仕様による。	17. 雨水の処理	□堅樋の下部は、排水管に直結するか又は、コンクリート製の樋受けを据えつける。 この場合、堅樋断面から塵芥や土砂が入らないようにする。 ■地下浸透雨水割による。
6. 2 階 床 ば り	□継手は、次のいずれかによる。 □受材上で大材を下にして台持ち継ぎとし、六角ボルト2本締めとする。 □受材より150mm内外持ち出し、追掛け大せん継ぎとする。 □はりせいが120mm程度のものは、大材を受材心より150mm内外持ち出し上端を揃え腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとし、短ざく金物両面当て、六角ボルト締めとする。 □仕口は、次のいずれかによる。 □柱との取合いは、かたぎ大入れ短ほど差しとし、羽子板ボルト締め又は羽子板ボルト締めとする。 □1字取合いは大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。 □受材が横架材の場合は、受材との取合いは、渡りあご掛けとする。	20. む な 木 ・ も や	■継手は、つかの位置を避け、つかより持出して、腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとし、N75釘2本打ちとする。 ■1字部の仕口は、大入れあり掛けとし、上端よりかすがい打ちとする。			6. 粘 土 瓦 葺 き	□粘土がわらの品質は、JISA5208（粘土がわら）に適合するもの又はこれと同等以上の性能を有するものを使用する。 □釘は、鋼・ステンレス・しんちゅう・長さ45～65mm径2.4mm内外とする。緊結線は、鋼・ステンレス、径0.9mm以上とする。 □和型厚形スレートの工法は、粘土がわらぶきと同様にする。 □その他の厚形スレートの工法は、以下による。なお、下記に定めのない事項は粘土がわらぶきの項による。 □平型厚形スレートは、すべて釘2本以上で留め付け、むね峠までふき結める。 □谷継スレートは、1枚ごとに釘及び緊結線2条ずつで留めつける。		
7. 火 打 ち ば り	■火打ちばりは次のいずれかによる。 ■木製火打とする場合は、90mm×90mm以上の断面寸法とする。はり・脚差・けた等との仕口は、かたぎ大入れとし、六角ボルト締めとする。ただし、はり・脚差・けた等の上端又は下端に取り付ける場合は、渡りあご又はすべりあごととし、いずれも六角ボルト締めとする。	21. た る 木	■継手は、乱に配置し、もや上端で腰掛継ぎとし、釘2本打ちとする。 ■軒先部以外の留めつけは、受け材当たりN75釘で両面を斜め打ちとする。ただし、たる木のせいが45mm程度の場合は、N100釘を両面打ちとする事ができる。 ■軒先部の留めつけは、けたへひねり金物、折金金物又はくら金物を当て、釘打ちとする。 □かわら棒ぶき屋根の場合のたる木間隔は、かわら棒の留めつけ幅と同一とする。			7. 厚 形 ス レ ー ト ぶ き	□厚形スレートの品質は、JISA5402（厚形スレート）に適合するもの、又はこれと同等以上の性能を有するものを使用する。 □釘は、鋼・ステンレス・しんちゅう・長さ45～65mm径2.4mm内外とする。緊結線は、鋼・ステンレス、径0.9mm以上とする。 □和型厚形スレートの工法は、粘土がわらぶきと同様にする。 □その他の厚形スレートの工法は、下記による。なお、下記に定めのない事項は粘土がわらぶきの項による。 □平型厚形スレートは、すべて釘2本以上で留め付け、むね峠までふき結める。 □谷継スレートは、1枚ごとに釘及び緊結線2条ずつで留めつける。		
8. 柱	■柱の断面寸法は図示による。 ■断面寸法は、105mm×105mmとする。 ■外部化粧柱は、120mm×120mmとする。 □通し柱の断面寸法は、105mm×105mmとする。 ■すみ柱（出すみ、入すみ）の断面寸法は、105mm×105mmとする。 □通し柱であるすみ柱は、ひのき、ひば、べいまつを使用する。若しくは、これらの樹種を使用した化粧びり構造用集成柱、構造用集成材又は構造用単板積層材を用いる。	22. 挽 板 野 地 板	□継手は、板の盛り約10枚以下毎に乱継ぎとし、継手はたる木心で突付けとする。 □取付けは、たる木に添え付け、たる木当たりN38釘2本を平打ちとする。なお、板そばは、見えがくれの場合は添え付け、見えがかりの場合はすべり刃又は相じやくりとする。			8. 屋 根 用 化 粧 ス レ ー ト ぶ き	□屋根用化粧スレートの品質は、JISA5423（住宅屋根用化粧スレート）に適合するもの、又はこれと同等以上の性能を有するものとする。 □屋根用化粧スレートによる屋根一般部分は、次による。 □ふき足及び重ねの長さは、JISA5423の規定による。 □ふき板は、1枚ごとに所定の位置に専用釘で野地板に留めつける。		
9. 間 柱	■横架材との仕口は、上部短ほど差し下部突きつけとし、下部はN75釘を斜め打ちする。 ■筋かい当たりは、間柱を切り欠き、N75釘2本を平打ちする。 ■通しぬき当たりは、添え付けてN65釘2本を平打ちする。	23. 合 板 野 地 板	■合板の品質は、構造用合板のJASに適合するもので、接着の程度1類、厚さ9mm以上のもの、又はこれと同等以上の性能を有するものとする。 ■取付けは、間隔150mm内外に受材当たりN38釘を平打ちする。			9. ア ス フ ァ ル ト 防 水	□歩行用 □非歩行用		
10. 胴 差	□継手は、はり及びすじかいを受ける間柱を避け、柱より持出し、追掛け大せん継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。 □通し柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほど差しとし、金物の補強は次のいずれかによる。 □短ざく金物当て六角ボルト締め、スクリーク釘打ちとする。 □かね折り金物当て六角ボルト締め、スクリーク釘打ちとする。 □羽子板ボルト締めとする。	24. パ ー テ ィ ク ル ボ ー ド 野 地	□パーティクルボードの品質は、JISA5908（パーティクルボード）に適合するもので、種類は13P又は13M以上とし、厚さ12mm以上とする。 □取付けは、間隔150mm内外に、受材当たりN50釘を平打ちとし、継目部分は2～3mmの隙間をあける。なお、軒及び妻側の部分に使用する底こまひ、のぼりよど、破風板等には木材を使用する。			10. シ ー ト 防 水	□加硫ゴム系シート防水 厚 2.0mm （ 脱気工法、 軽歩行露出工法 ） □合成樹脂系シート防水 厚 1.5mm （ 脱気工法、 軽歩行露出工法 ） □その他（ ）		
11. 軒 げ た	■継手は、はりを受ける柱間を避け、柱より持出し、追掛け大せん継ぎ、腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとする。	25. 鼻 かく し	■継手の位置は、たる木心とし、次のいずれかにより、たる木当りに釘打ちとする。 ■継ぎ手は隠しやとい実継ぎとする。			11. 塗 布、塗 膜 防 水	□ウレタン塗布防水 厚 mm □ゴムアスファルト塗布防水 厚 mm □その他（ ） 厚 mm		
12. 間 仕 切 げ た （ 頭 つ な ぎ ）	■継手は、はりを受ける柱間を避け、柱より持出し、腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとする。 ■主要な間仕切げたとけた又は脚差との1字取合部の仕口は、大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。	26. 破 風 板	■継手の位置は、もや心とし、次のいずれかにより、むな木、もや及びけた当りに釘打ちとする。 ■継ぎ手は隠しやとい実継ぎとする。			12. 防 水 モ ル タ ル	□セメント系 □樹脂系 □その他（ ）		
13. 筋 かい	■断面寸法は45mm×90mm以上を標準とする。 ■見付け平使いとし、上下端部の仕口は建築基準法に基づき告示による。 ■筋かいが間柱と取り合う部分は、間柱を筋かいの厚さだけ欠きとって筋かいを通す。 ■詳細は図示による。								
14. 木 ず り	□断面寸法は、12mm×75mm以上とする。 □継手は、柱・間柱心で突付け、5枚以下毎に乱継ぎとする。 □柱・間柱等への留め付けは、板そば20mm程度に目透かし張りとし、それぞれN50釘2本を平打ちする。								
設計者					CONSTRUCTION NAME				
2026.03					阿寺溪谷公衆トイレ建築工事				
					MAP NAME				
					木造特記仕様書 2				
					SCALE				
					DATE 2026.03 Job No. 24-022				
					MAP No. T-02 /04				

0 8 造作工事		1 2 塗装工事		1 6 外構工事		
1. 床板貼り	□ 換板の厚さは、12mm以上とする。 □ フローリングを根太に直接貼る場合は、釘、接着剤を併用し、根太に直角に貼る。 □ モザイクパーケット及びフローリングブロックについては、下地をよく清掃した後エポキシ樹脂系の又は酢酸ビニル樹脂系エマルジョン形の接着剤を下地全面に均等に塗布し、入念に貼る。 □ 貼り上げたものは、厚手の紙などを用いて、汚れや損傷を防ぎ、雨などから入念に養生する。	3. モルタル塗り	■ 下塗り及び中塗りは、それぞれ2週間以上放置して次の塗付にかかる。 □ 防水モルタルは、材料を正確に計量して、塗り厚は、20mmを限度とする。 □ 製造後4ヶ月以上経過したものは使用しない。	1. 一般事項	■ 塗装の品質は、すべてJISに適合したもの又はこれと同等以上の性能を有するものとし、監理者が認めたものを使用する。 ■ 内部に使用する塗料は、原則としてF☆☆☆☆を使用する。 ■ あらかじめ塗り見本を提出して、監理者の承認を受けるとともに、必要に応じて施工面に見本塗りを行なう。 ■ 工事中は、塗装面ならびに塗装面以外の部分に汚染や損傷を与えないように十分注意し、必要に応じて適正な養生を行なう。	
2. 敷居、かもし、その他	□ 敷居と柱との接合は、一方は横ぼぞ差し又は目違い入れとし、他方は横せん打ちとする。 □ かもしの柱への取付は、一方は横ぼぞ差し、他方はすりこみとし、上端より釘2本打ちとする。 ■ 縁端は、枠に添え付け、隅の見付は大留めとし、両端及び間隔450mm内外に隠し釘打ちとする。 ■ 継手は、柱心で目違い継ぎ又は突き付け継ぎとし、出隅及び入隅は大留めとする。 □ 巾木の取付は、床に小穴入れ又は添え付けとし、隠し釘打ちとする。	4. せっこうプラスター塗り	□ 材料は、水に濡らさないように保管し、製造後2年以上経過したものは、使用しない。 □ こて塗り又は吹付けいずれの場合も、下地が見えない程度の塗り厚に仕上げる。	2. 合成樹脂調合ペイント塗	□ 合成樹脂調合ペイントの塗装は、JISK5516に適合するもの又は、これと同等以上の性能を有するものと監理者が認めたものを使用する。	
3. 内外壁下地	■ 鋼線を留め付ける間隔は、455mm以内として受け材に釘で留め付ける。	5. 繊維壁塗り	□ 寸法の長さは、150mm内外に切ったものを標準とする。 □ 塗り厚さは、壁は15mm、天井は12mmを標準とする。	3. 合成樹脂エマルジョンペイント	■ 合成樹脂調合エマルジョンペイントの塗装は、JISK5563に適合するもの又は、これと同等以上の性能を有するものと監理者が認めたものを使用する。	
4. 外壁内通気措置	□ 外壁内に通気層を設け、壁体内通気を可能とする構造とする。 ■ 防風材は、JISA6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シートなど、気密性と防水材及び湿気を放散するのに十分な透湿性を有する材料とする。 □ 通気は、土台水切り部から取り込み、壁上部で排出する（詳細は図示による）。	6. しっくい塗り	□ 木舞竹は、篠竹又は真竹でいずれも割竹とする。 □ 下塗りには、木舞竹地に十分すり込んだのち塗り付け、裏返し塗りをする。下塗り、十分乾燥したのちむら直しをする。 □ 中塗りには、むら直しが十分乾燥したのち、むらなく塗付、平滑にこて押える。	4. 木材保護着色塗料塗	■ WG：木材保護着色塗料塗：キシラデコールU A着色仕上（着色2回＋クリアー1回塗） [大阪ガスケミカル株式会社] 同等品	
5. 外壁板張り	□ よこ羽目張り（羽根目板張り） □ 板そばは、本葉ジャグリ、幅割り合わせとする。継手は、受材心で相欠き、乱継ぎとする。 □ 取付は、受材当りに通りよく、つぶし頭釘打ち又はしんちゅう釘打ちとする。 □ よろい下見板張り □ 板幅をそろえ、羽裏ねは、20mm内外とする。 □ 継手は、受材心で相欠き、乱継ぎとする。取付は、受材当りに通気よく、つぶし頭釘又は、しんちゅう釘打ちとする。	7. 土壁塗り				
6. サイディング貼り	□ ジョイナー、防水テープ等は、各製造所の指定する材料を使用する。 □ サイディングと土台水切りなどの取合は、10mm程度の隙間をあける。 □ 開口部廻りの防水処理は、防水テープなどにより補強する。	10 内外装工事	1. 石貼り	1. 一般事項	■ 給排水衛生設備工事は下記による他、機械設備図にて指示する。	
7. ALC板貼り	□ 厚さ 50mm □ 厚さ 38mm □ 目地コーキング材 □ ポリサルファイド系 □ ウレタン系 □ 実成シリコン □ その他（	2. タイル貼り	□ 石材は、傷、又は亀裂を生ずる恐れのある筋や欠点の少ないものとし、色、仕上面については、見本品を提出して監理者の承認を得る。 □ つなぎ金物などは、鋼又はしんちゅう製とする。	2. 給水・給湯設備工事	□ すべての給排水配管は、点検口などにより点検できるようにする。 ■ 給水設備及び給湯設備については、水圧試験を行なう。試験の時期は、配管の一部又は全部の完了後で隠蔽、埋戻し及び被覆の施工とする。試験水圧は、1Mpa (10kgf/cm ²) とし、水圧保持期間は、原則として30分以上とする。 ■ 排水設備は、衛生器具などの取り付け完了後に通水試験を行なう。	
8. 塗装溶融亜鉛めっき銅板貼り	□ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板の品質は、JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）に適合するもの又は同等以上の性能を有するもので建築用外板用とする。 □ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板のたて形下見板のたて方向は、90mm以上重ねる。横方向は、重ね合わせ又はこはぜ合わせとする。重ね合わせの場合の重ね幅は、1山以上とする。 □ 留め付けは、間隔300mm内外で、胴縁に亜鉛めっき釘（亜鉛めっきをしたカラー釘を含む。）打ちとする。	3. たたみ敷き	□ 種類 □ 本量 □ ビニール量 □ スタイル量 □ 畳縁 □ 縁あり □ 縁無し □ たたみの敷込は、敷居やたたみ寄せ部などで段違い、すきまが生じないよう、また、不陸がないように行なう。	3. 排水設備工事	■ 硬質塩化ビニール管を使用する場合の排水主管又は枝管で2系統が水平合流する箇所は、45° Y管又は90° 大曲 Y管を使用する。 ■ 屋内横走り排水管の勾配は、呼び径75未満は1/50、呼び径75以上は、1/100を標準とする。 □ 屋外排水管の主管の呼び径は、75以上とし、勾配は1/100以上とする。 ■ 通気管は、必ず設置し位置については、監理者と協議する。	
9. 内壁合板貼り	■ 合板の品質は、普通合板、難燃合板、特殊合板（天然木化粧合板、特殊加工化粧合板）構造用合板又は構造用パネルのJASに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。 ■ 水がかり箇所又はこれに準ずる箇所に使用する合板の種類は、I 類とする。 ■ 普通合板を使用する場合、合板の表面の品質は、1等とする。	4. タイルカーペット敷き	□ 使用する材料は、風合い、色合いなどは、見本品を提出して、監理者の承認を得る。	4. 衛生設備工事	■ 器具を木造壁などへ取り付ける場合には、十分に補強を行い、堅固に取り付ける。 ■ その他、取付方法などの詳細は、各製造所の仕様による。	
10. 石膏ボード貼り、その他のボード貼	■ 石膏ボードの品質は、JISA6901（せっこうボード製品）の規格品又は、同等以上の性能を有するものを使用する。（図示による。） □ 防火材料面の不陸直しに使用するパテは、無機質のものとする。	5. ビニル床タイル貼り	□ 貼り付け後、接着剤が硬化したことを確認した後に、全面を水がきなどで清掃したうえ、乾燥後は、樹脂ワックス又は、水性ワックスを用いてつや出しを行なう。	5. 換気設備	■ 器具の取付方法などの詳細は、各製造所の仕様による。 ■ ダクトの材質及び経路については図示により、工事着手前に監理者と打合せを行なう。	
11. 天井下地	■ 木天井下地とする。	6. ビニル床シート貼り	□ 接着剤及びシーラーの品質、種類は、壁紙の製造所の指定するものとし、巻きぐせがとれ、十分伸縮するまで敷き並べる。			
0 9 左官工事		7. 壁紙（クロス）貼り	□ 仮敷は、必要に応じて行なうものとするが、施工にあたっては、耐付長く切断して、「F☆☆☆☆品」を使用する。	1 4 ガス設備工事		
1. 一般事項	■ 下地は、塗り付け直前によく清掃する。 ■ コンクリート、コンクリートブロックなどの下地は、あらかじめ適度の水湿しを行なう。 ■ 気温が5℃以下の場合及びモルタルが適度に硬化しないうちに5℃以下になる恐れのある場合は、作業を中止する。やむを得ず、作業を行なう場合は、板囲い、シート覆いなどを行なうほか、必要に応じて保護する。さらに、監理者の指示に従う。	8. 仕上塗り材仕上げ	■ 仕上塗材の品質は、JISA6909（建築用仕上塗材）に適合するもの又は、これと同等以上の性能を有するものとして監理者が認めたものを使用する。 ■ 外部の塗装は、降雨の恐れのある場合又は強風時には、原則として、仕上げを行なってはならない。 ■ 仕上げ後、仕上面に变色、色むらなどが生じた場合は、その面の仕上げ直しを行なう。	1. 一般事項	□ すべてのガス配管は、点検口などにより点検できるようにする。 □ 工事完了時には、気密試験を行い異常ないことを確認の上、ガスへの置換を行なう。	
2. モルタル下地ラス工法	□ 防水紙は、アスファルトフェルト430以上とする。 □ 防水紙は、縦目を縦、横とも90mm以上重ね合わせる。留め付けはタッカーなどを用いて縦目部分は、約300mm間隔に、その他の箇所は裏面に行い、たるみ、しわのないように貼る。	1 1 建具工事		2. 配管など	□ 配管は、煙突など火気に対して十分な間隔を保持する。また、電線及び電気工作物に近接する場合又は交差する場合は、関係法令に従い必要な距離をとるか又は防護措置をとる。 □ 配管には埋設部と露出部に適切な防食措置を講ずる。特に建物等からの腐食電流の影響を受ける場合は、絶縁継手を設置する。 □ 配管は、自重、地震及び温度差による伸縮などの影響を考慮し適切に支持固定する。	
		1. 外部建具	■ サッシは、JISA4706（サッシ）に適合するもの又はこれと同等以上の品質と性能を有するものと監理者が認めたものを使用する。 ■ ドアは、JISA4702（ドアセット）に適合するもの又はこれと同等以上の品質と性能を有するものと監理者が認めたものを使用する。 □ 金属性両戸は、JISA4713（住宅用金属製両戸）に適合するもの又はこれと同等以上の品質と性能を有するものと監理者が認めたものを使用する。 □ 防火戸は、建築基準法に基づき指定を受けたものとする。 ■ 網戸は、特に指示のない場合は、外面納まり全可動式とし、網は以下とする。 □ 合成樹脂製 ■ ステンレス製 □ 建具に使用する木材の品質は、十分乾燥した心材材とし、割れ、歪みなどの欠点のないものとする。 □ 水がかり部分に使用する建具の接着剤は、耐水性、耐候性に効果のあるものを使用する。 □ 内装ドアユニットなどの組立及び取付については、各製造所の仕様による。	1 5 電気設備工事は下記による他、電気設備図にて指示する。	1. 一般事項	■ 電気工事は、電気事業法、電気設備に関する技術基準を定める省令、電気用品取締法、建築基準法、消防法、電気工事士法、その他関係法令、(社)日本電気協会が定める内線規定及び供給電力会社の供給規定に基づいて施工する。
		2. 内部建具	■ 建具金物は、形状、寸法が正しく、機構が円滑で表面にきず等の欠点のないものとする。監理者の指示により見本提出をする。有償の場合は請負者負担とする。 □ 使用するメーカーは、「MIWA製」又は、「GAL製」を使用する。 ■ マスターキー □ 必要 □ 不要 ■ 同一キー ■ 各キーは、室名札をつけて引き渡し時にまとめて提出する。	2. 電力設備	■ 器具及び材料は、JISの規定がある場合は、JISに適合するものを、電気用品取締法の適用を受ける場合は形式認可及び形式承認済みのものを使用する。 ■ 屋内配線は、弱電流電線、給排水管、ガス管もしくはこれらに類するものと接触しないように離隔して配線する。 ■ 重量のある照明器具などは、補強合板、補強吊り材などを使用して確実に取り付け、必要に応じて振れ止めも設ける。 ■ 水気のある場所、屋外などに施設する機械器具の電	

8. 品質検査

(1) 設計対象層及び調査箇所数。

① 設計対象層は最弱層とし、砂質土、粘性土、ロームの土質区分では(砂質土)とする。

② 設計対象層(最弱層)の深度は、GL-(1.50 ~ 2.50m)付近とする。

表 1. 調査箇所数

項 目	採取部位	採取箇所数	備 考
小規模建築物における品質検査	頭部モールドコア	1箇所	材齢 7日
	深部モールドコア	1箇所	材齢 7日

注) 深部モールドコアにおいて、 $X_{i7} < F_c$ の場合は、材齢28日強度を確認する。
頭部モールドコアの抜き取り数は、改良体100本に1箇所以上とする。

- (2) メーターサンプラーによる品質管理
設計対象層に対しメーターサンプラーにてサンプリングを行う。
改良部の連続性、土塊混入状況、及び不良率の確認をフェノール試験、指圧試験により行う。
ただし、現場状況等によりメーターサンプラーによるサンプリングが困難な場合は、深部モールドコアを1箇所追加し、計2箇所
でサンプリングすることによりメーターサンプラーの代用を行う。
高温養生（60℃）による材齢1日圧縮試験を行う。
これらにより、健全な品質を確認しモールドコア試験を実施する。

(3) 合否の判定

- ① 抜き取り1箇所に対して3個の供試体採取する。
- ② 可否の判定はn個(コアの個数)の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

- $$X_i \geq F_c$$

X_i : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ (材齢7日) ($1 \leq i \leq n$) (kN/m²)、
 (もし $X_i 7 < F_c$ の場合は、 $X_i 28 \geq F_c$ を確認する。)
 F_c : 設計基準強度 (kN/m²)
 n : コアの抜き取り個数
 i : 個々の供試体

- ## 9. 工事報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- ① コラム伏図及び番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラムの径及び改良長
- ④ 掘削深度
- ⑤ 固化材の配合と使用量
- ⑥ モールドコア圧縮強度試験結果

試験名	室内配合試験
試料箇所数	1箇所

(1) セメントスラリーに使用する固化材は、セメント及び、セメント系固化材とする。

(2) 配合強度

配合強度 X_f は設計基準強度 F_c の 1.7 倍に設定する。

$$X_f = F_c \times 1.7$$

 X_f : 配合強度 (kN/m²)

F_c : 設計基準強度 (kN/m^2)

- (3) 配合量 (固化材量とW/C)

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$$X_{128} = X_f / \alpha_f$$

$$X_{17} = (X_f \wedge \alpha_f) \wedge \sigma_7$$

X_{128} : 室内配合強度(28日強度) (kN/m²)

X_{17} : 室内配合強度(7日強度) (kN/m²)

X_f : 配合強度 (kN/m²)

X_f : 配合強度 (kN/m²)

 α_s : 現場/室内強度比 (強度比0.65; 実績より) α_f : 現場/室内強度比 (強度比0.65; 実績より) σ_7 : 材齡28日／材齡7日強度比

室内配合試験(3日強度: X_{13})により決定する場合は、 X_{17} を材齢7日/材齢3日強度比で割った配合強度とする。

暫定配合量 $300(\text{kg}/\text{m}^3)$ 、 $\text{W}/\text{C}=80\%$ 【最終的には配合試験により決定する。】

		設計者		Memo	CONSTRUCTION NAME	阿寺溪谷公衆トイレ建築工事	MAP NAME	SCALE		MAP
				2026.03				—		
								DATE	Job No.	
								2026.03	24-022	

■ 設 計 概 要 書										
◆工事名称・その他										
工 事 名 称	令和6年度 阿寺溪谷公衆トイレ建築工事									
工 事 場 所	木曾郡大桑村大字野尻 2883-3									
工 事 種 別	新築工事									
用 途 地 域	指定なし									
防 火 地 域	指定なし									
その他の地域地区	－									
敷 地 面 積	330.00 m ²									
法定建蔽率/容積率	－									
主 要 用 途	公衆便所									
建 築 主	大桑村長 坂家 重吉									
工 期	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日									
そ の 他										
◆構 造・規 模										
主 体 構 造	木造									
地 盤 改 良	柱状地盤改良									
地 業	砕石地業									
階 数	地上1階									
最高の高さ	3.560 m									
最高の軒の高さ	2.900 m									
増 築 予 定	なし									
◆内部仕上表 特記なき部分すべてF☆☆☆☆使用（下地共）										
室 名	床レベル	天井高	床	巾 木	腰壁（ライニング部分）	壁	廻縁	天 井	塗装	備 考
男子トイレ	±0 (-30)	2,615	屋外対応 防滑性ビニル床シートt=2.5 下地：モルタル ＜小便器廻り＞おだれ石（陶器製） t=6.0 モルタル下地	磁器質150角 床タイル 下地：ラスモルタル ＜外壁部断熱材＞ P F t=25	化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0 ジョイント:シリコン 防水石膏ボード t=12.5 / 下地：木下地 ＜天板＞メラミン化粧板ライニングR加工 t=19 D=150 ＜巾木＞SUS製 t=0.8 H=60	化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0 ジョイント:シリコン 防水石膏ボード t=12.5 / 下地：木下地	突付 塩ビ製	化粧石膏ボード t=9.5 (910×910) 下地：LGS19型天井下地	木部 WG塗装	抗菌・不燃化粧板:71h/13-M同等品
女子トイレ	±0 (-30)	〃	屋外対応 防滑性ビニル床シートt=2.5 下地：モルタル	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
多目的トイレ	±0 (-30)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
■略号 ・WG : 木材保護着色塗料塗：キシラデコールUA着色仕上（着色2回＋クリヤー1回塗）【大阪ガスケミカル株式会社】 同等品 ・EP : 合成樹脂エマルジョンペイント塗 ・化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0：ステンド#400【エーアンドエーマテリアル】 同等品 ・メラミン化粧板ライニングR加工 t=19：ポストフォームカウンター【アイカ工業】 同等品 ・防水石膏ボード t=12.5：QM-0898（準不燃）										
			設計者			CONSTRUCTION NAME 阿寺溪谷公衆トイレ建築工事	MAP NAME 設計概要書、内外仕上表、付近見取図	SCALE － DATE 2026.03.	Job No. 24-022	MAP No. A-01 /14

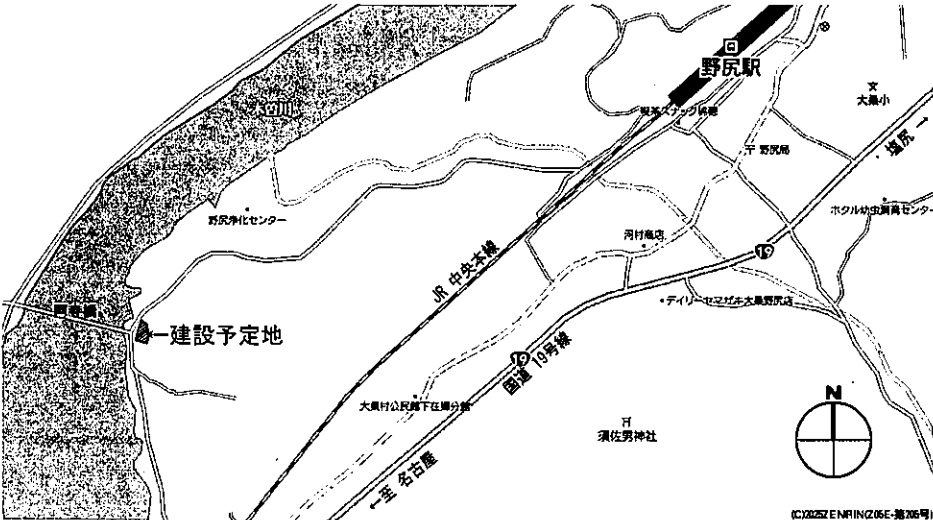
◆面 積 表

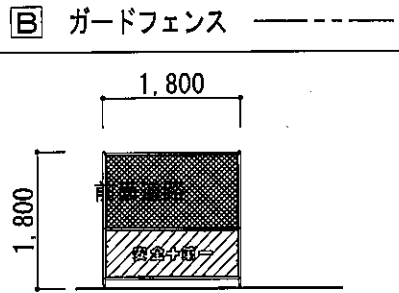
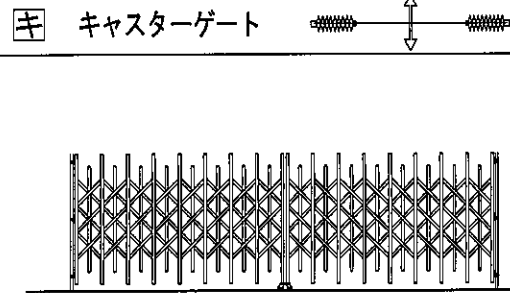
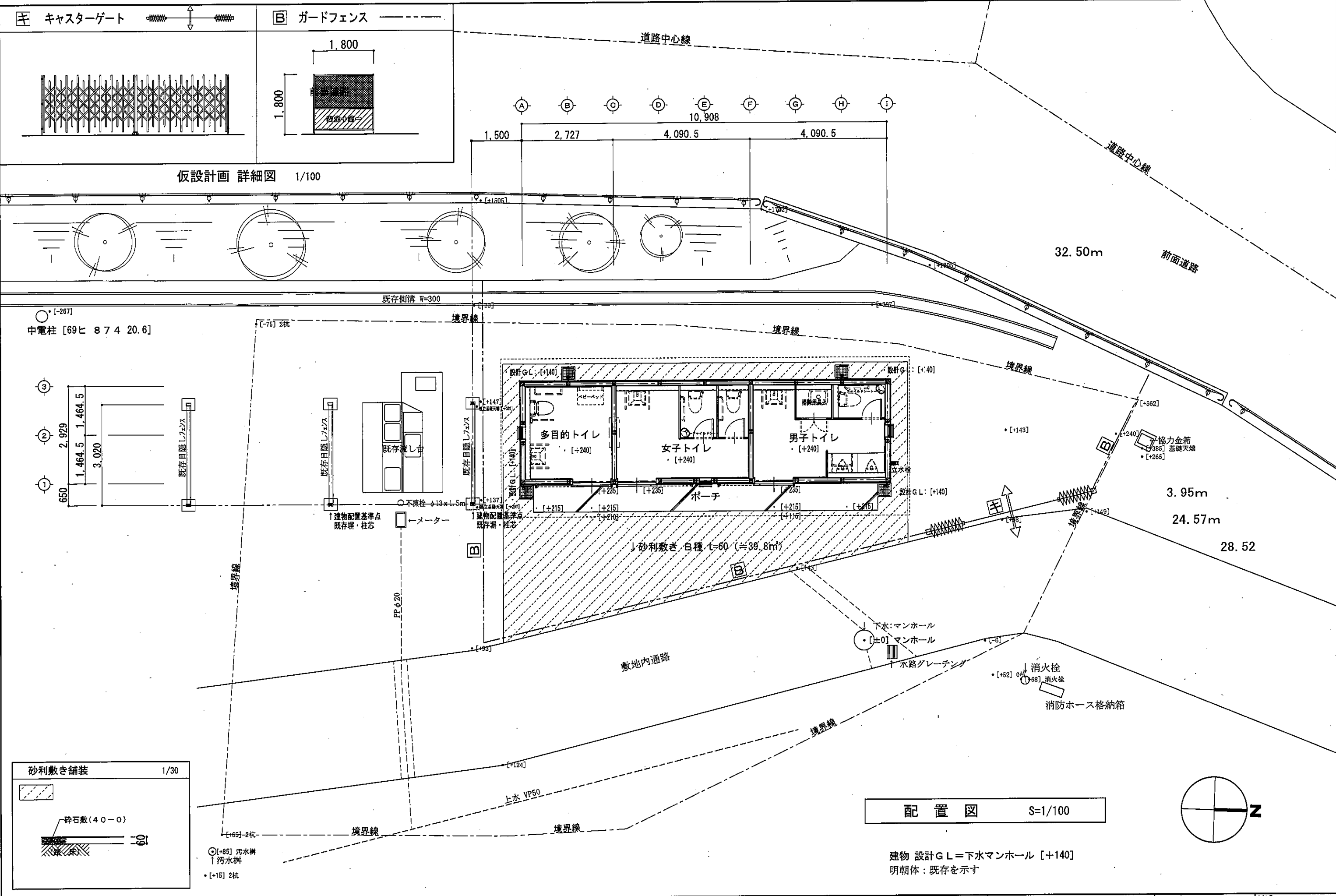
	底 辺	高 さ	面 積
本 体	10.908	2.929	31.9495
ポーチ	10.908	0.060	0.6544
建築面積			32.60
	底 辺	高 さ	面 積
男子トイレ	4.0905	2.929	11.9811
女子トイレ	4.0905	2.929	11.9811
多目的トイレ	2.727	2.929	7.9874
延床面積			31.94

◆外部仕上表

部 位	仕 上
基 礎	塗装合板型枠コンクリート打放し（A種）＋ 撥水剤吹付
外 壁	窯業系サイディング 16t×455w×3030 横張り：モエンエクセラード16 Vシリーズ リーガストーン調V・準不燃材料（ニテハ）同等品 下地：通気留付金具＋防水紙 水切り：塗装溶融55%7μmニウム亜鉛合金メッキ鋼板 t=0.35 、木部：WG塗装
屋 根	ガルバリウム鋼板 t=0.4 立平葺き 働幅@455 ニューS&W（セキノ興産）同等品 アスファルトルーフィング940 野地板構造用合板 t=12 鼻隠し・破風：ガルバリウム鋼板 t=0.4 包み 雪止アングル：L-50x50x4 亜鉛メッキ品 取付金物@910以下
軒 天	珪酸カルシウム板 t=6.0（一部有孔板）＋EP塗装
軒樋・タテ樋	曲面軒樋：角型ガルバリウム鋼板 t=0.5（曲面・多角形） 一般軒樋：ガルバリウム鋼板既製品 130(83)×91(85) 角樋S5型（セキノ興産）同等品 タテ樋：ガルバリウム鋼板 t=0.35 75φ 支持金物 亜鉛メッキ品 @800
ポ ー チ	コンクリート面刷毛引き仕上げ
開 口 部	アルミサッシ（カラー：標準色）、軽量鋼製建具、木製Fix窓
断 熱 材	P F：ポリステレンフォーム 3種b 土間下 t=40、基礎立上り t=25 、土間下防湿シート t=0.15 GW：高性能グラスウール 16kg/m3 外壁 t=100、天井 t=100

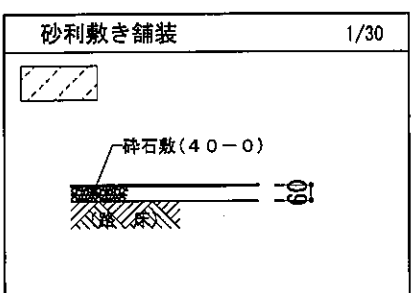
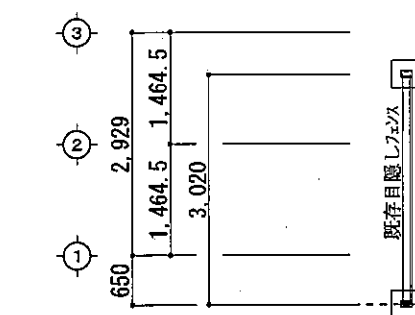
◆付近見取図





仮設計画 詳細図 1/100

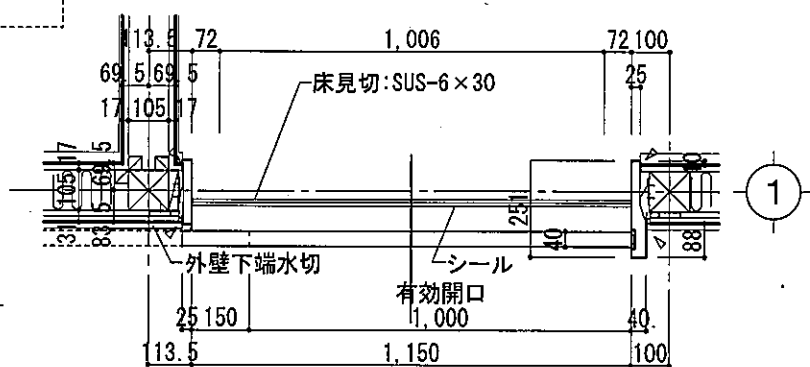
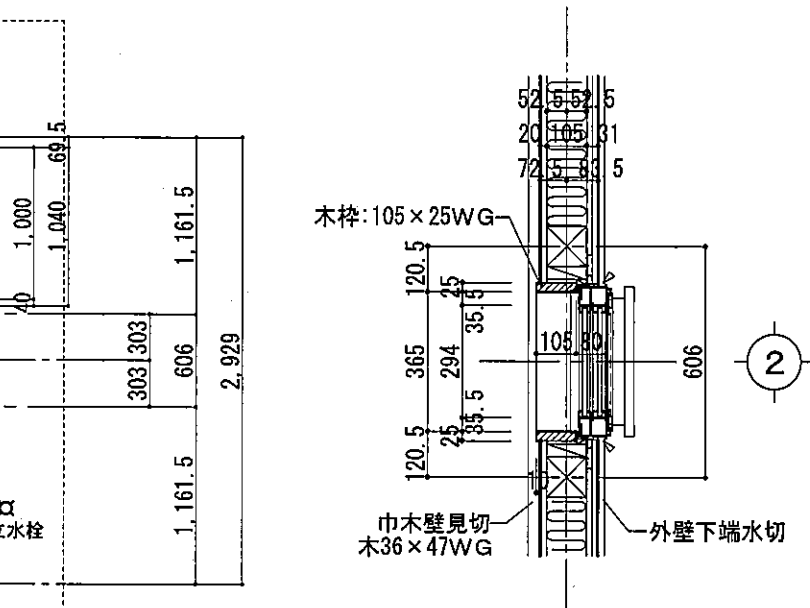
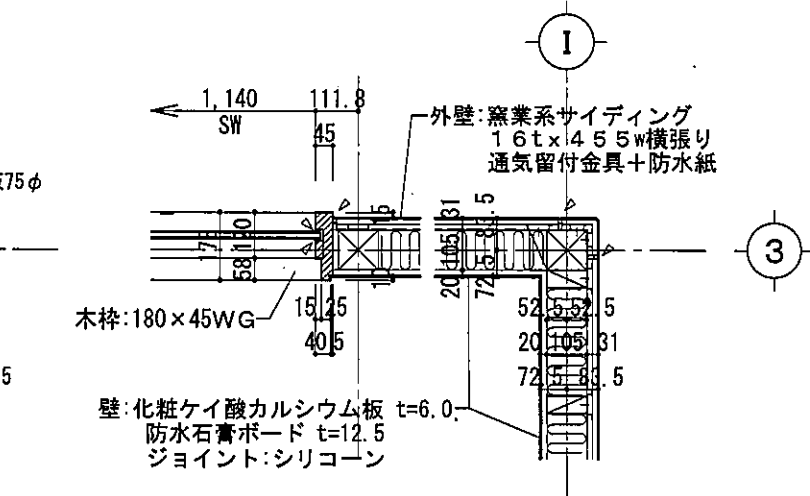
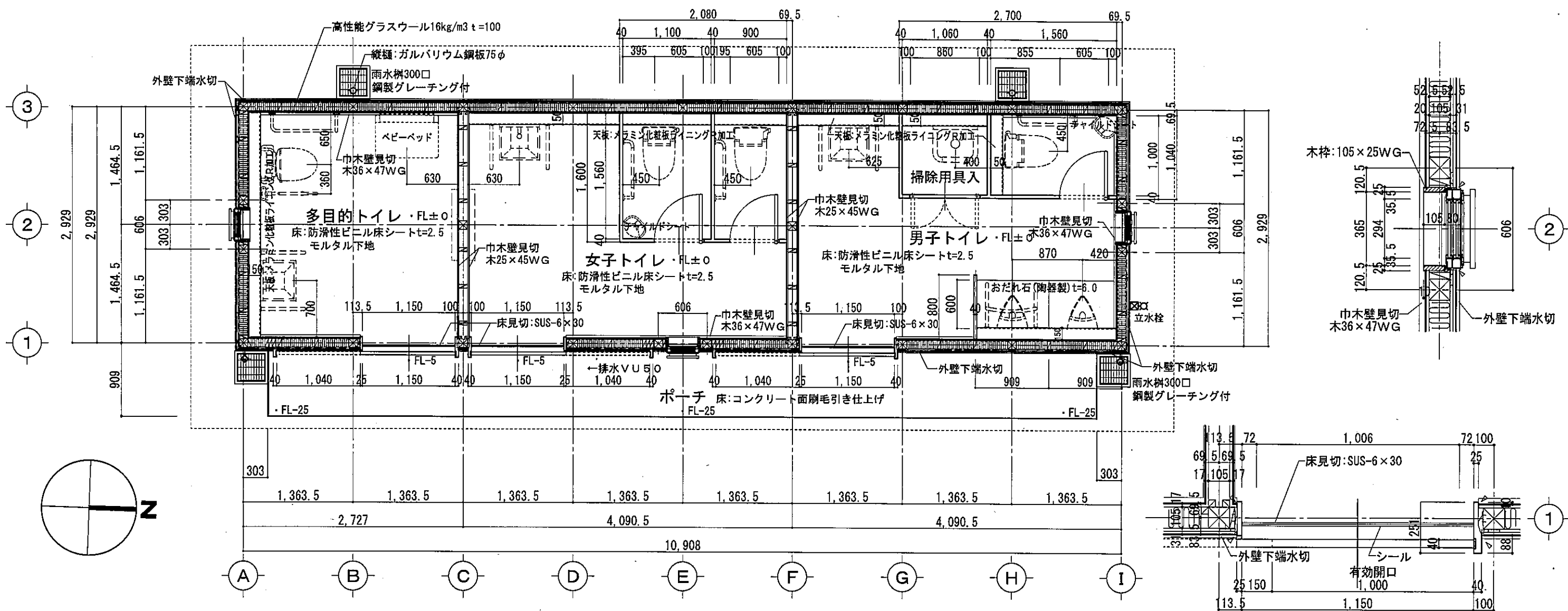
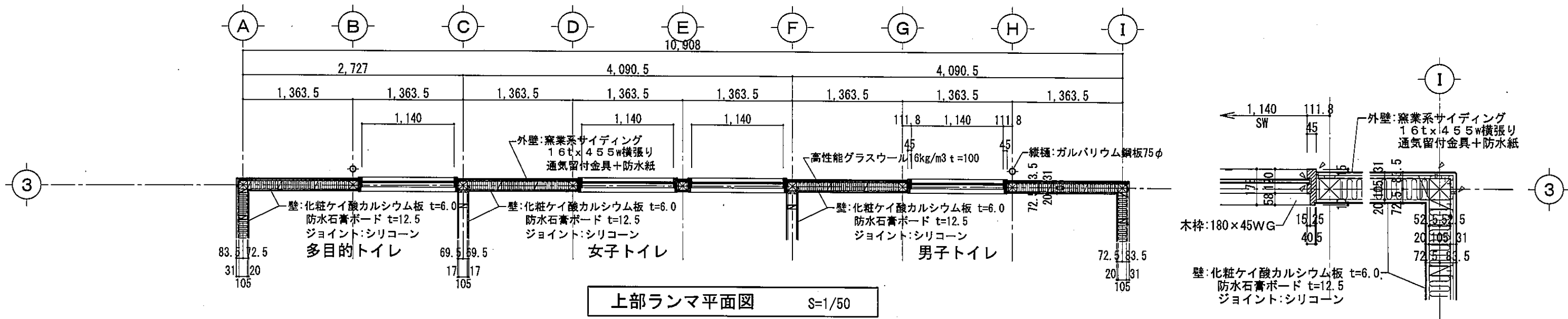
中電柱 [69ヒ 874 20.6]



配置図 S=1/100

建物 設計GL=下水マンホール [+140]
明朝体: 既存を示す

設計者		Memo		CONSTRUCTION NAME		MAP NAME		SCALE		MAP	
		2026.03		阿寺溪谷公衆トイレ建築工事		配置図・仮設計画図		1/100		No. A-02	
								DATE		Job No.	
								2026.03		24-022	

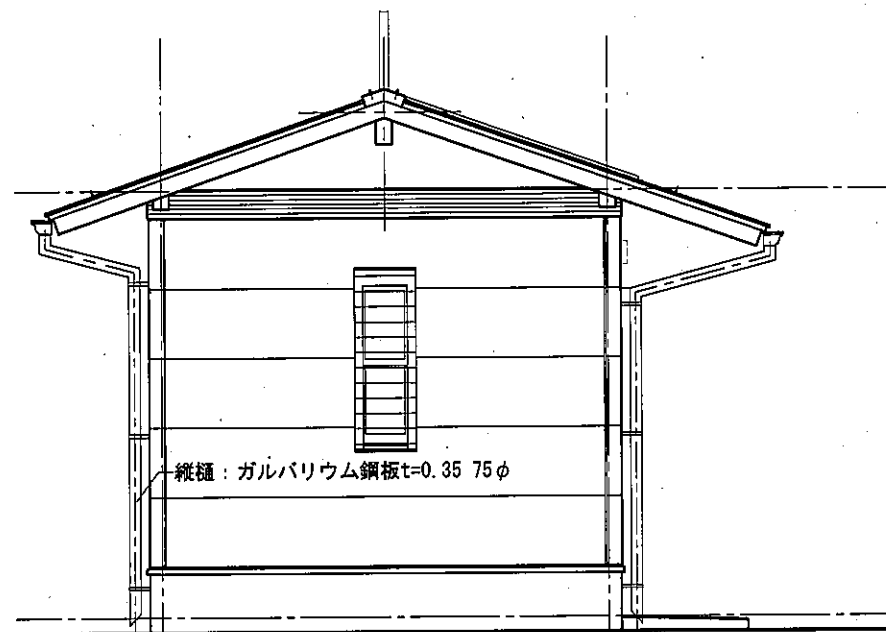


【凡例】
柱 : 105 x 105
間柱 : 105 x 45 @454.5

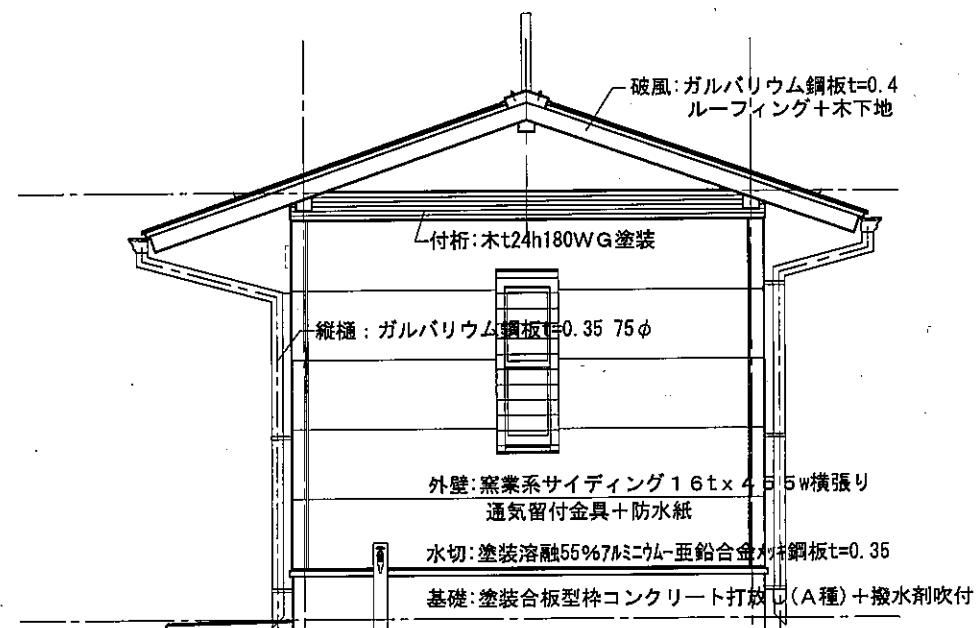
平面図 S=1/50

部分平面詳細図 S=1/20

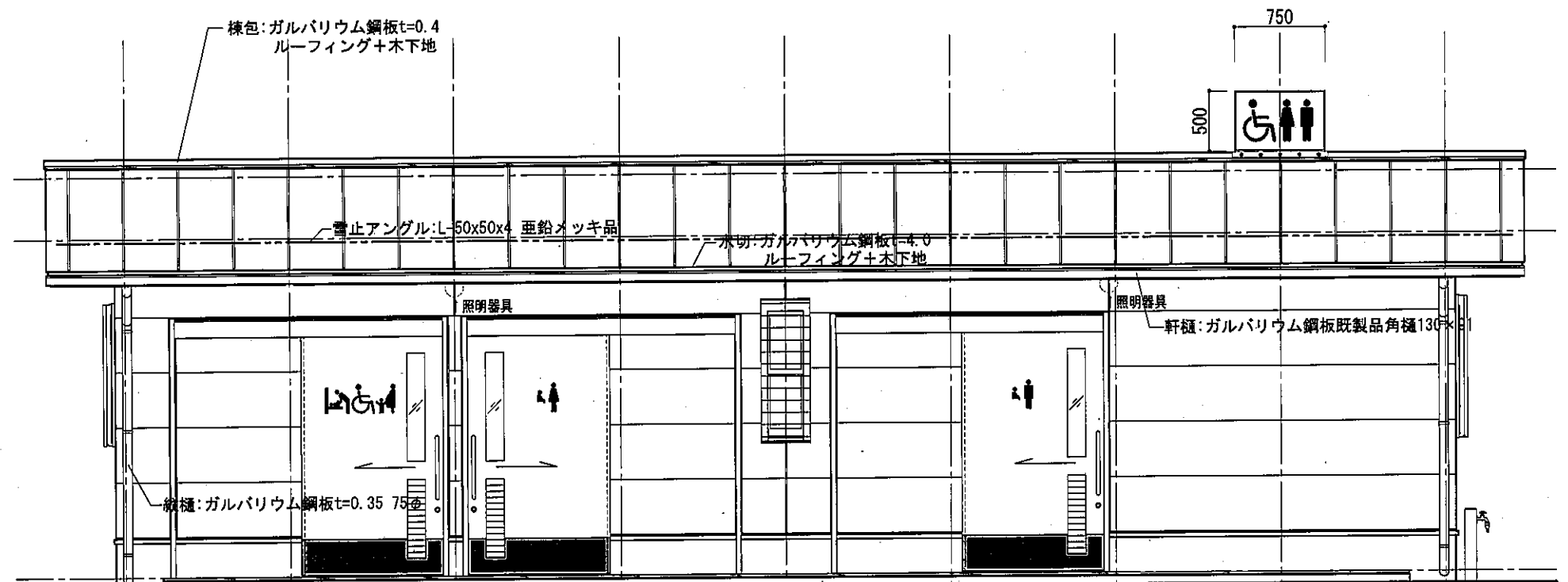
		設計者		Memo	CONSTRUCTION NAME	MAP NAME	SCALE		MAP		
					2026.03.		阿寺溪谷公衆トイレ建築工事	平 面 図		1/50 1/20	No. A-03
									DATE	Job No.	
									2026.03.	24-022	



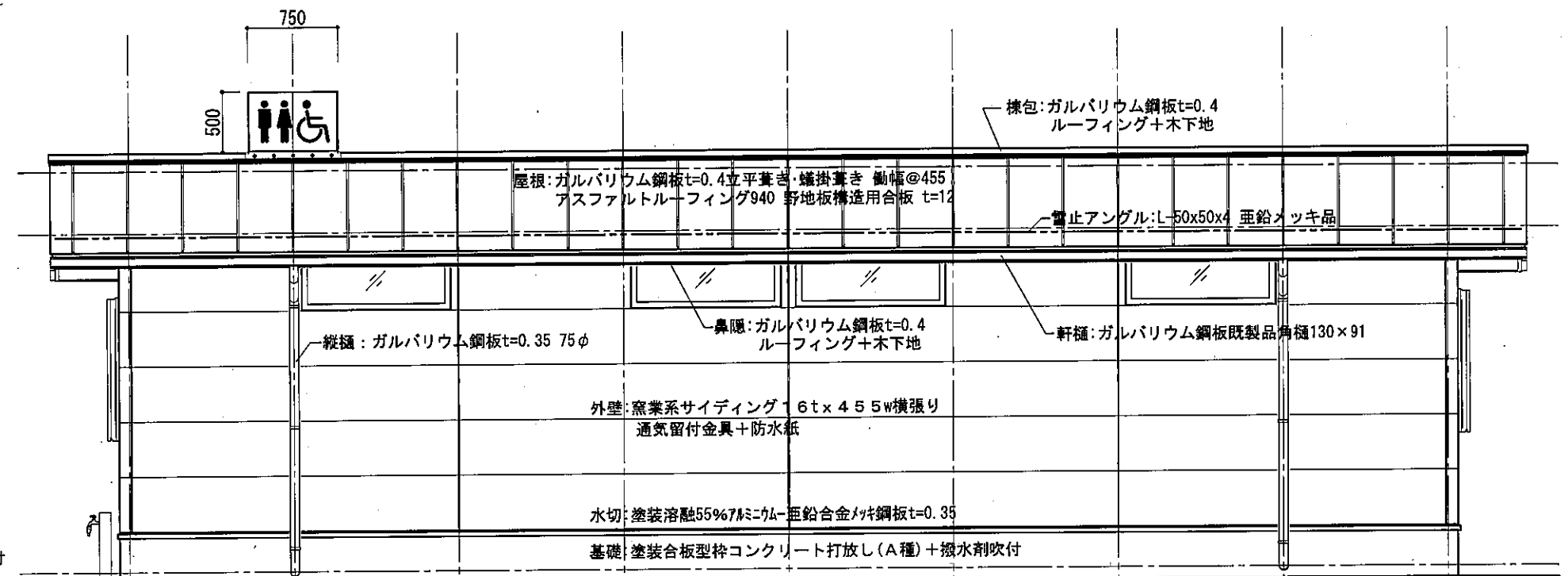
南立面图



北立面图

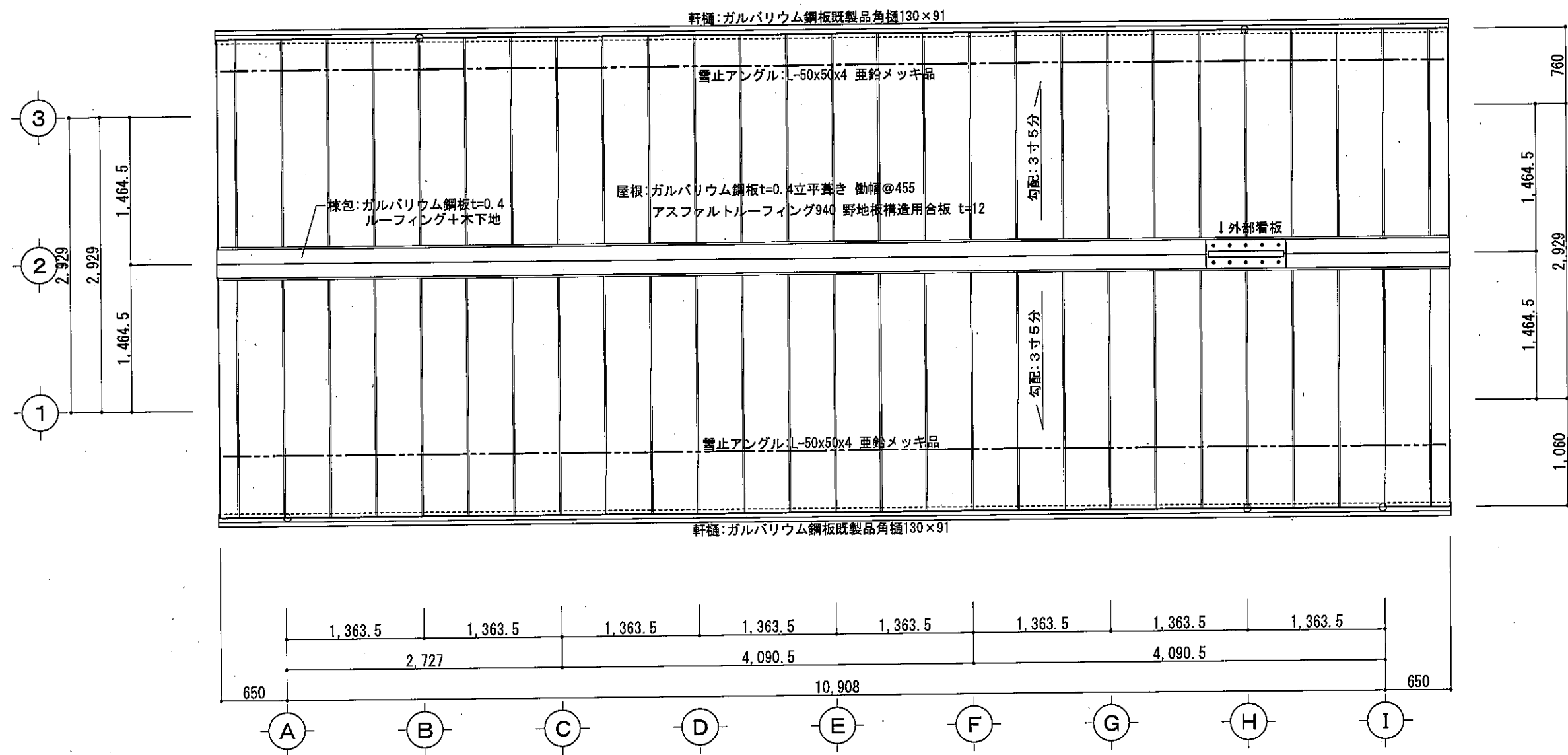


東立面圖



西 立 面 图

立面图 S=1/50



屋根伏図 S=1/50

設計者

Memo

2026.03

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

屋根伏図

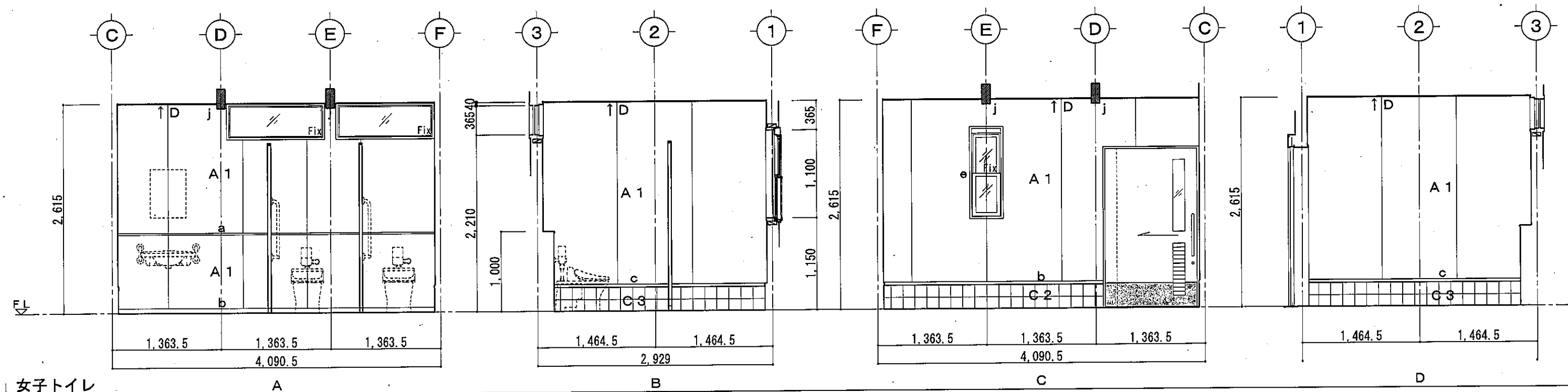
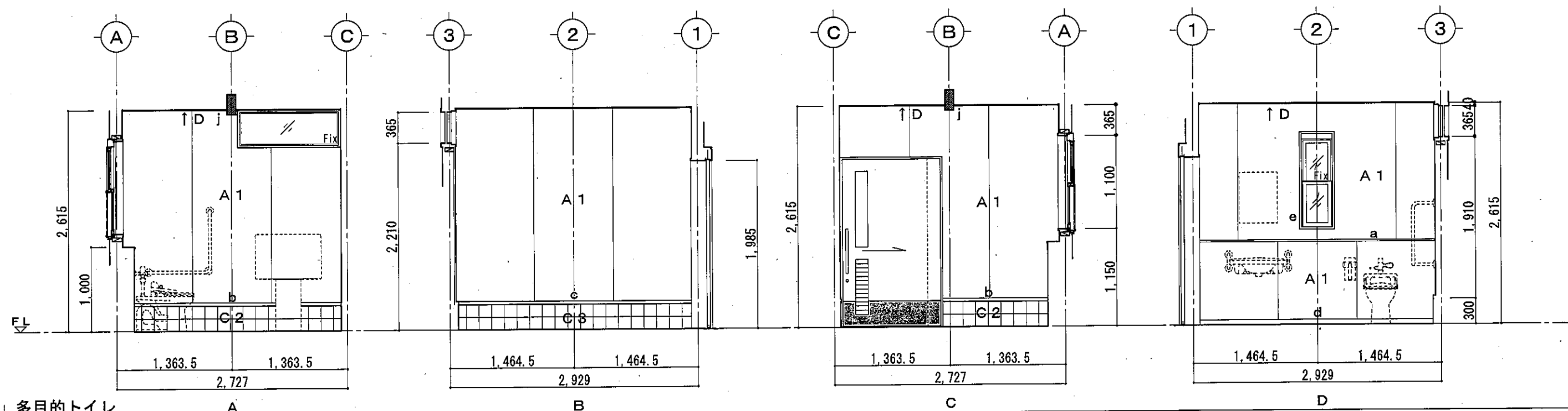
SCALE
1/50

DATE
2026.03

Job No.
24-022

MAP

No. A-06



展開図 1 S=1/50

展開図
凡例

A : 壁仕上 : 化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0 ジョイントシーリング
B : 壁仕上 : EP塗装
C : 巾木 : 磁器質150角床タイル接着貼
D : 天井 : 化粧石膏ボード t=9.5

1 : 壁下地 : 防水化粧石膏ボード t 12.5
2 : 巾木下地 : スタイロ+ケイカル複合板 t 30
3 : 巾木下地 : コンクリート打放補修

a : ライニング天板 : 化粧化粧板 t 19 x d 150
b : 巾木壁見切 : 木 36 x 47 WG
c : 巾木壁見切 : 木 45 x 25 WG
d : 巾木 h 60 : SUS t 0.8
e : サッシ木枠 : 105 x 25 WG

h : 天壁見切木 : 105 x 45 WG
j : 木梁 : 105 x 240 WG
k : 木梁 : 120 x 105 WG

設計者

Memo
2026.03.

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

展開図 1

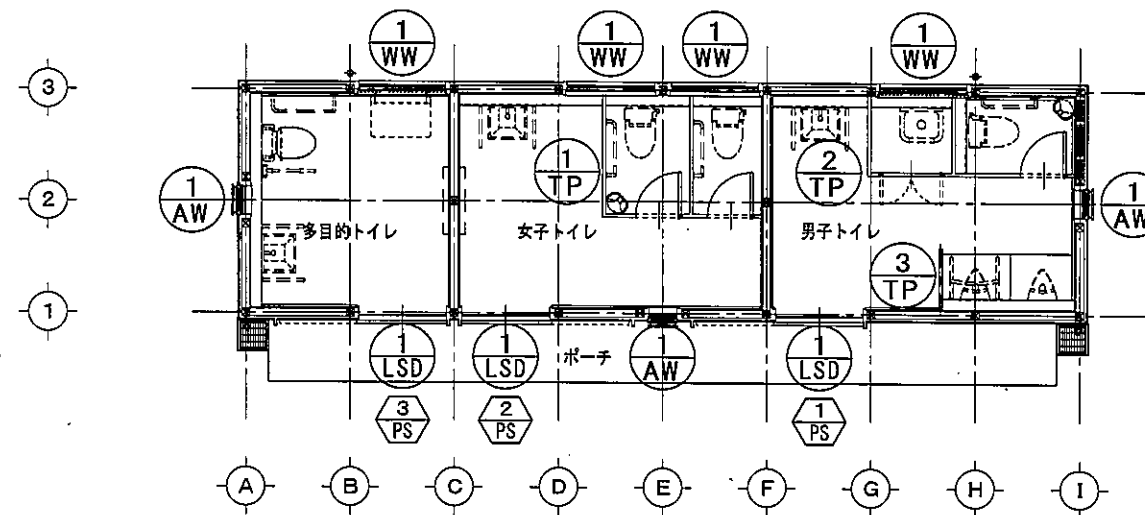
SCALE
1/50

DATE
2026.03.

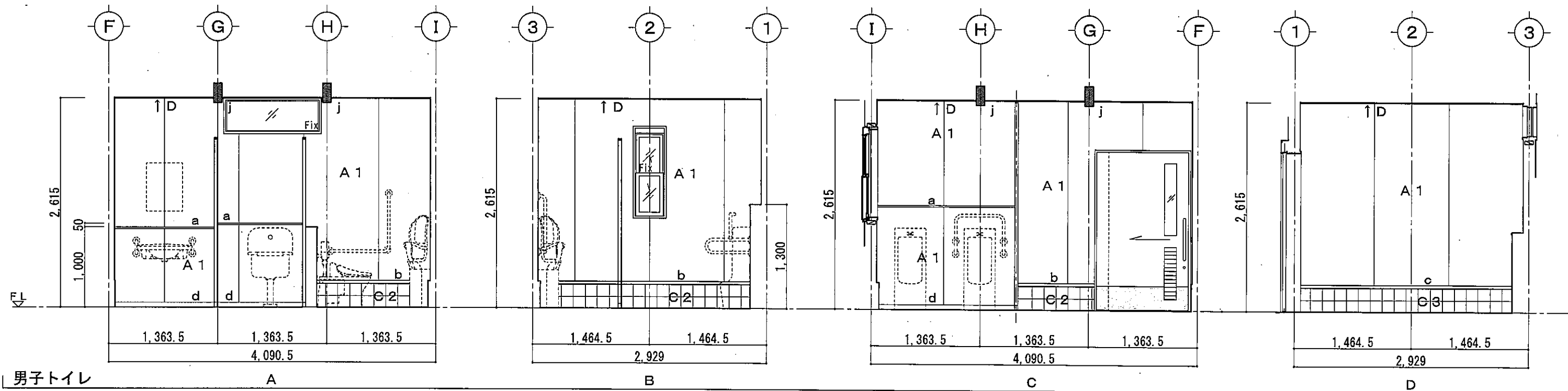
Job No.
24-022

MAP

No. A-08



建具キープラン S=1/100



展開図 2 S=1/50

展開図
凡例

A : 壁仕上 : 化粧ケイ酸カルシウム板 $t=6.0$ ジョイント:シーリング
B : 壁仕上 : E-P塗装
C : 巾木 : 磁器質150角床タイル接着貼
D : 天井 : 化粧石膏ボード $t=9.5$

1 : 壁下地 : 防水化粧石膏ボード $t=12.5$
2 : 巾木下地 : スタイロ+ケイカル複合板 $t=30$
3 : 巾木下地 : コンクリート打放補修

a : ライニング天板 : 珪藻土化粧板 $t=19 \times d=150$
b : 巾木壁見切 : 木 36×47 WG
c : 巾木壁見切 : 木 45×25 WG
d : 巾木 $h=60$: SUS $t=0.8$
e : サッシ木枠 : 105×25 WG

h : 天壁見切木 : 105×45 WG
j : 木梁 : 105×240 WG
k : 木梁 : 120×105 WG

設計者

Memo
2026.03.

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

展開図 2、建具キープラン

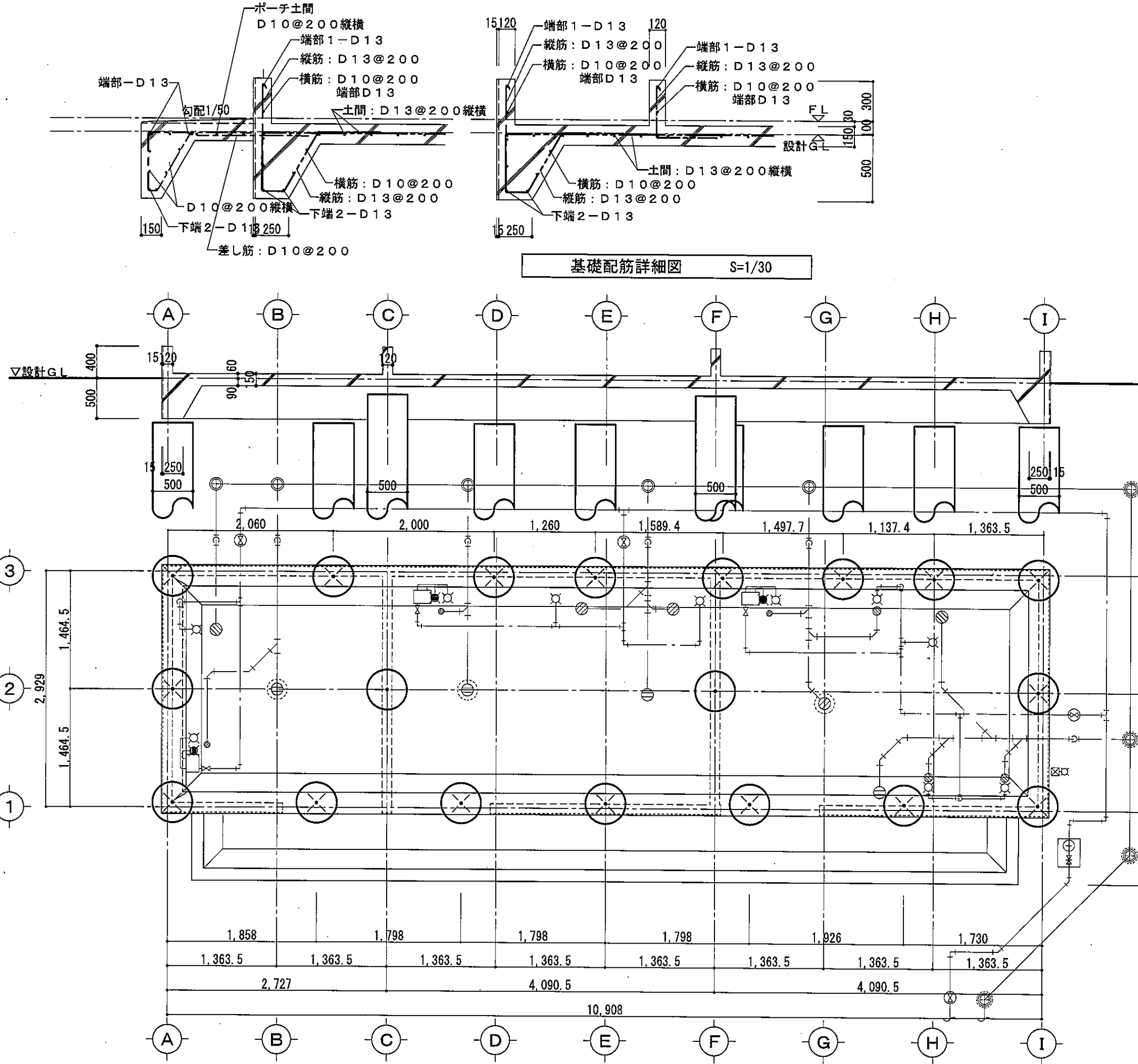
SCALE
1/50 1/100
DATE
2026.03.

Job No.
24-022

MAP

No. A-09

記号・形式		AW-1	上げ下げ窓	AW-2	Fix窓	WW-1	Fix窓	LSD-1	手動開放自動閉鎖軽量スチールハンガー戸	PS-1、2、3	ピクトサイン	PS-4	外部看板		
位置・数量		各室	3ヶ所	各室ハイサイドライト	6ヶ所	各室	4ヶ所	各室	3ヶ所	各室	各1ヶ所	外部	1ヶ所		
形状・寸法															
		仕上		カラーアルミ	80	カラーアルミ	80	木製WG	177	スチール焼付塗装	250	ピクトグラム	SUS枠+アルミ複合板		
		見込		カラーアルミ	30	カラーアルミ	30	—	—	スチールフラッシュ焼付塗装	40	カッティングシート	屋外サイン カッティングシート		
		硝子		Low-E3+A6+型板4		Low-E3+A6+型板4		Low-E3+A6+型板4		FW6.8				屋根棟木：SUS製ボルト M10(×10本)	
		金物		上げ下げ用金物一式		—		—		ステンレス引手L=450・ガイド・鎌錠：非常用開閉装置付				SUS製ベースプレート t=6.0	
備考		外部目隠し固定ルーバー・網戸(SUS網)付き		窓高さ：特注寸法※		ガラス止めコーキング内外		額・ガラリ(SUS網付き)		引き方向平面図参照					
記号・形式		TP-1		トイレパーテーション		TP-2		トイレパーテーション		TP-3		トイレスクリーン			
位置・数量		女子トイレ		1ヶ所		男子トイレ		1ヶ所		男子トイレ		1ヶ所			
形状・寸法															
		仕上		ペーパーコア合板フラッシュメラミン練り付け		40		ペーパーコア合板フラッシュメラミン練り付け		40		ペーパーコア合板フラッシュメラミン練り付け		40	
		見込		ペーパーコア合板フラッシュメラミン練り付け		40		ペーパーコア合板フラッシュメラミン練り付け		40				メラミンソリッドパネル	
		硝子		—		—		—		—					
		金物		グラビティーヒンジ・スライドボルト表示錠・支持金物		—		グラビティーヒンジ・スライドボルト表示錠・支持金物		—		SUS巾木h60・笠木アルミ(蓋付)・支持金物		壁面レール・固定用アングル	
備考		帽子掛け戸当り・内開き		付属金物一式		帽子掛け戸当り		付属金物一式		—		付属金物一式			
				設計者		Memo		CONSTRUCTION NAME		MAP NAME		SCALE			
						2026.03		阿寺溪谷公衆トイレ建築工事		建具表、サイン詳細図		1/50 1/30 1/20			
												DATE			
												2026.03			
												Job No.			
												24-022			
												No. A-10			



柱状地盤改良 (スリーエスG-cube工法・同等品)

設計GL=調査KBM+0.14m
 φ500mm L=3.0m(内空掘り0.55mm)
 主要部 19本 その他 5本 計 24本

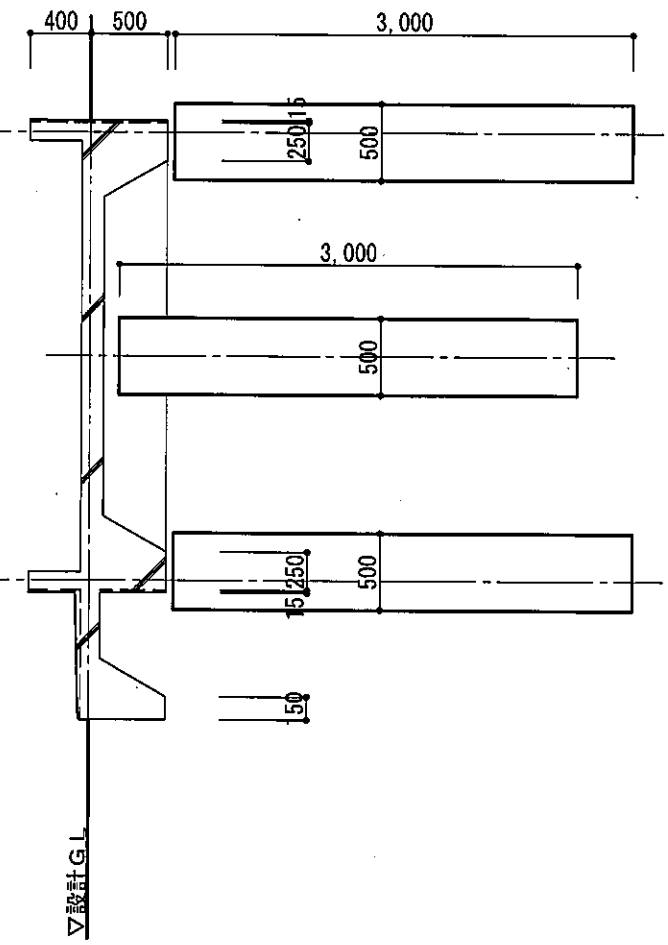
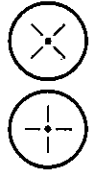
使用固化材 太平洋セメント㈱ ジオセット200(六価クロム低減型)
 固化材添加量 C=300kg/m³(最終決定は配合試験結果による)
 設計基準強度 F_c=600kN/m²
 水セメント比 W/C=80%

杭頭仕上レベル

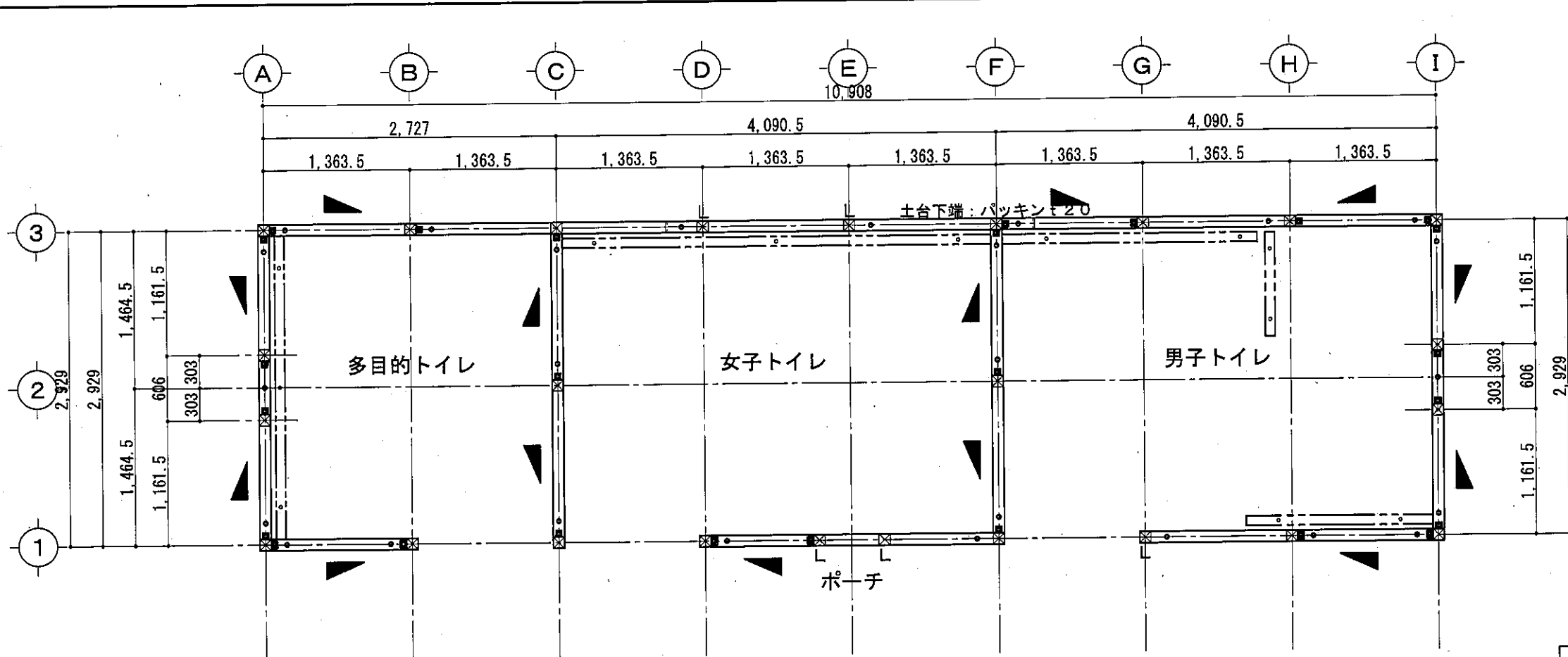
外周、独立部 22本 GL-550mm(捨コン下端)

内部 2本 GL-190mm(砕石下端)

※機械設備配管位置との調整を行う事



設計者 2028.03	Memo 2028.03	CONSTRUCTION NAME 阿寺溪谷公衆トイレ建築工事	MAP NAME 地盤改良図・基礎配筋詳細図	SCALE 1/50 DATE 2028.03	MAP Job No. 24-022 No. A-11
----------------	-----------------	------------------------------------	---------------------------	----------------------------------	--------------------------------------

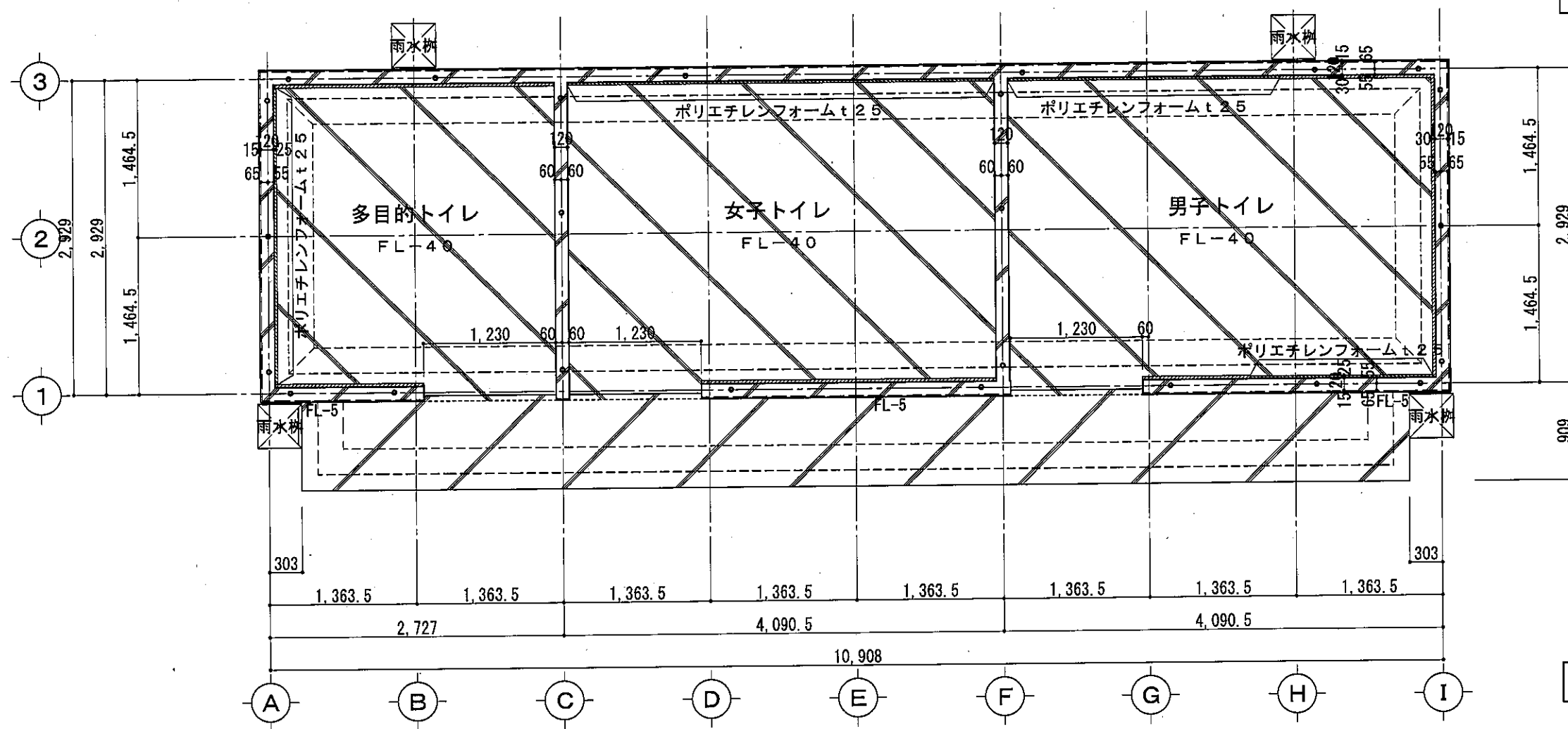


土台伏図凡例

- 土台: 105×105 防腐処理
- 管柱: 105×105
- — 化粧柱: 特記以外 120□
- アンカーボルト: M12 L-400
- ホールダウン金物
- ライニング壁敷き土台 90×45
アンカーボルト M12
調整モルタル共
- ▲ — 筋交: 90×45
筋違方向: 筋違プレートにて筋結
- V — 山形プレート V P
- L — 角金物 C P・L

筋違い凡例

土台伏図 S=1/50



基礎伏図凡例

- 土間: コンクリート t150
増し打ち無し 木ゴテ押え
ポリスチレンフォーム t40
- 土間: コンクリート t130
増し打ち有り 10~40mm
刷毛引き仕上
- 基礎立ち上がり部断熱材
ポリフォーム+ケイカル複合板 t30
一部ポリエチレンフォーム t25
- アンカーボルト: M12 L-400
- — 独立基礎: 150□×300□×h500
SUS柱脚化粧金物 120□

※ 配筋要領別図参照

基礎伏図 S=1/50

設計者

Memo
2026.03

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

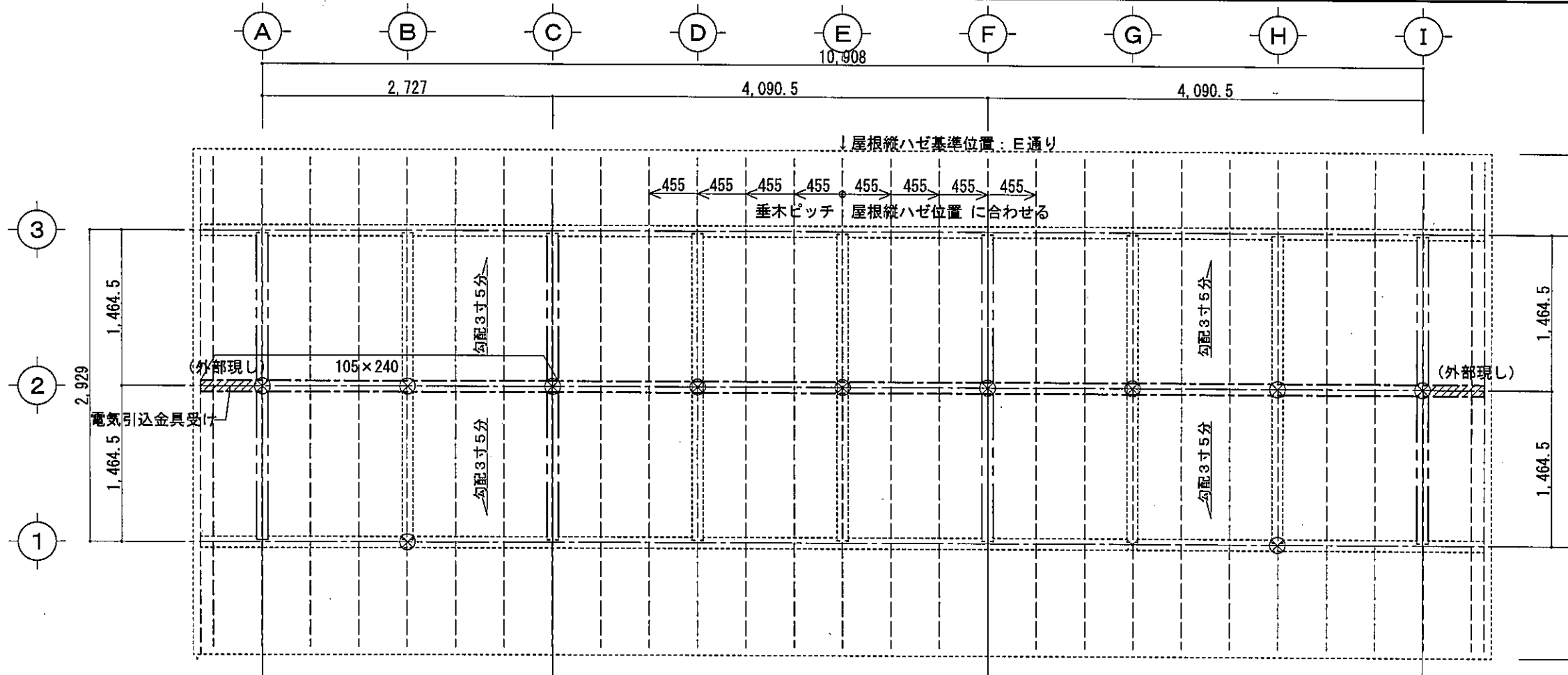
基礎伏図、土台伏図

SCALE
1/50
DATE
2026.03

Job No.
24-022

MAP

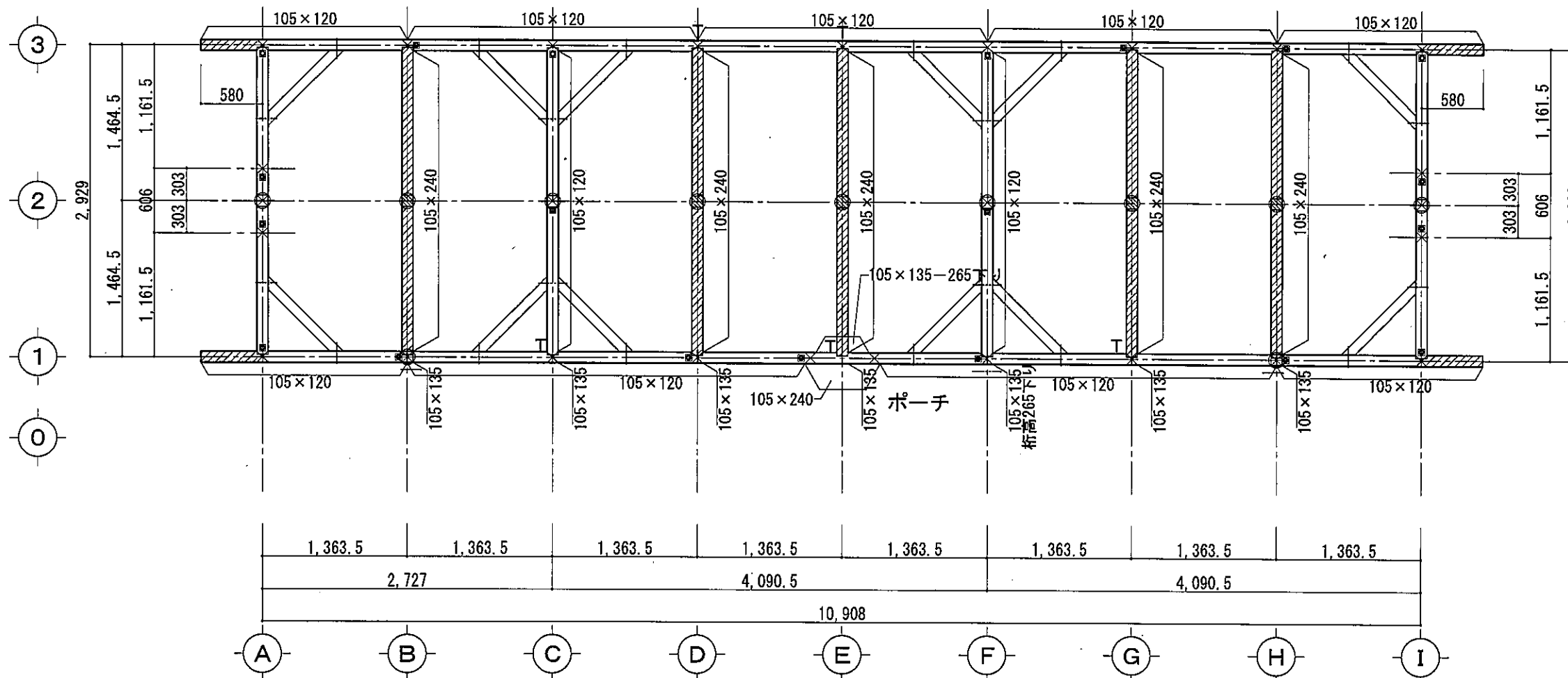
No. A-12



小屋伏図凡例

- 桁・梁：梁桁伏図参照
- 棟木：105×120（外部現し）
- 母屋：105×105
- ⊗ — 下部小屋束位置
- 頭繋ぎ：特記以外105×45
- 垂木：90×45 @ 455
屋根縦ハゼ・ピッチに合わせる

小屋伏図 S=1/50



梁桁伏図凡例

- 桁・梁：特記以外105×105
- 桁・梁：現し材
- 下部管柱位置
- ⊗ — 小屋束：特記以外105×105
- ⊙ — 小屋束：105×105 現し
- 火打梁：90×90現し+ボルトM12
- 垂木掛け：105×45
- 垂木：90×45 @ 455
屋根縦ハゼ・ピッチ
- 特記無き限り 羽子板ボルトBP-2
- 羽子板ボルト
- T — 角金物CP-T

梁桁伏図 S=1/50

設計者

Memo
2026.03

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

梁桁伏図、小屋伏図

SCALE
1/50

DATE
2026.03

Job No
24-022

MAP

No. A-13

木造壁量計算表

表一 (建築基準法施行令第46号)

軸組の種類	倍率	設計壁量の小計 (×単位壁長×ヶ所=)	
		X方向	Y方向
(1) 厚さ4.5センチメートルで幅9センチメートルの木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	2.0	1階 136×5×2.0 106×1×2.0	1階 116×4×2.0 146×4×2.0
		=1,572	=2,096
(2) 9センチメートル角の木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	3.0		
(3) (1)に掲げる筋かいをたすき掛けに入れた軸組	4.0		
設計壁量の合計 cm		1,572	2,096

◎上の数値が必ず下の数値以上であること。

必要壁量 cm	448	1,241
---------	-----	-------

or: いずれか大きい数値

① or ② ① or ③

1階平面必要壁量

$$1階床面積㎡ \times 表二の数値 = 必要壁量cm \dots \textcircled{1}$$

$$31.94 \times 14 = 448$$

X面立面必要壁量

$$見付面積㎡ \times 表三の数値 = 必要壁量cm \dots \textcircled{2}$$

$$5.99 \times 50 = 300$$

Y面立面必要壁量

$$見付面積㎡ \times 表三の数値 = 必要壁量cm \dots \textcircled{3}$$

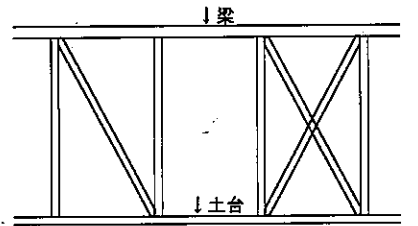
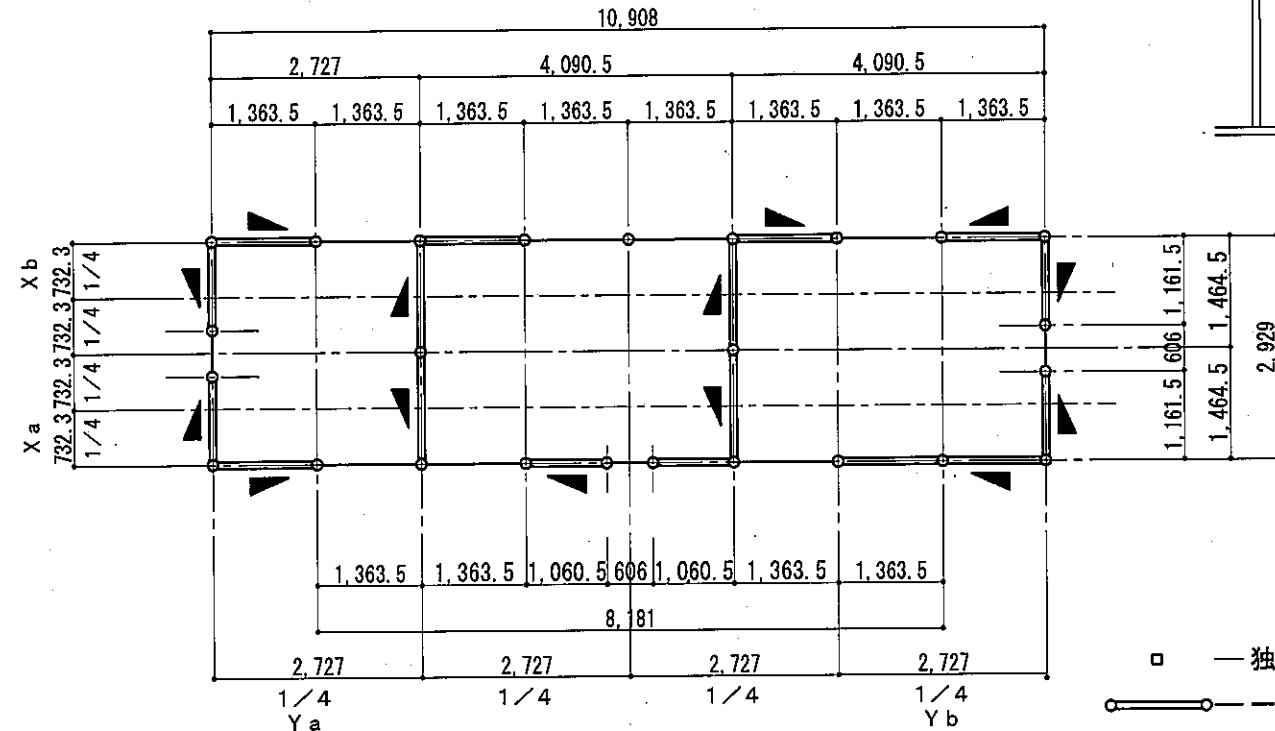
$$24.82 \times 50 = 1,241$$

表二 地震力によって定まる壁量

建築物	階の床面積に乘ずる数値 単位 cm/㎡		
	階数が1の建築物	階数が2の建築物の1階	階数が2の建築物の2階
屋根を金属板葺き 外壁をサイディング	⑭	37	18

表三 風圧力によって定まる壁量

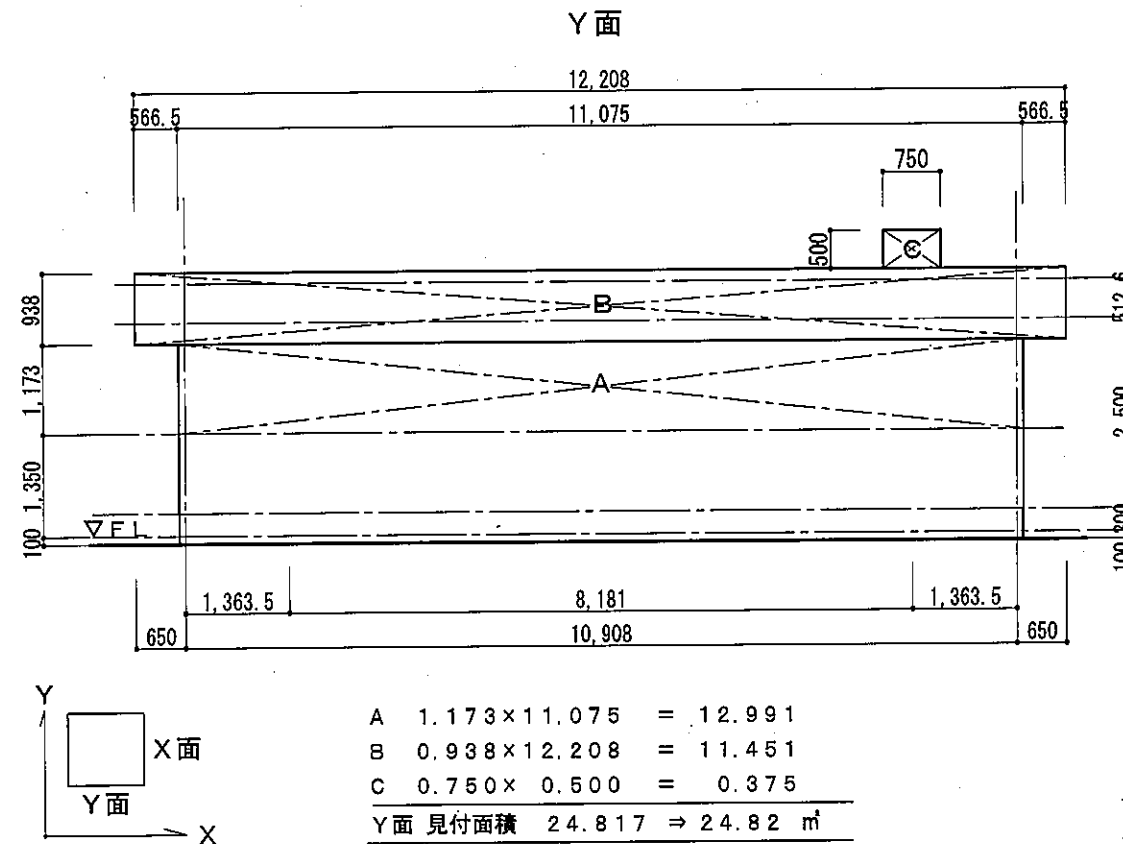
	区 域	見付面積に乘ずる数値 単位 cm/㎡
(1)	特定行政庁がその地方における過去の風の記録を考慮してしばしば強い風が吹くと認めて規則で指定する区域	50を越え、75以下の範囲内において特定行政庁がその地方における風の状況に応じて規則で定める数値
(2)	(1)に掲げる区域以外の区域	⑤⑩



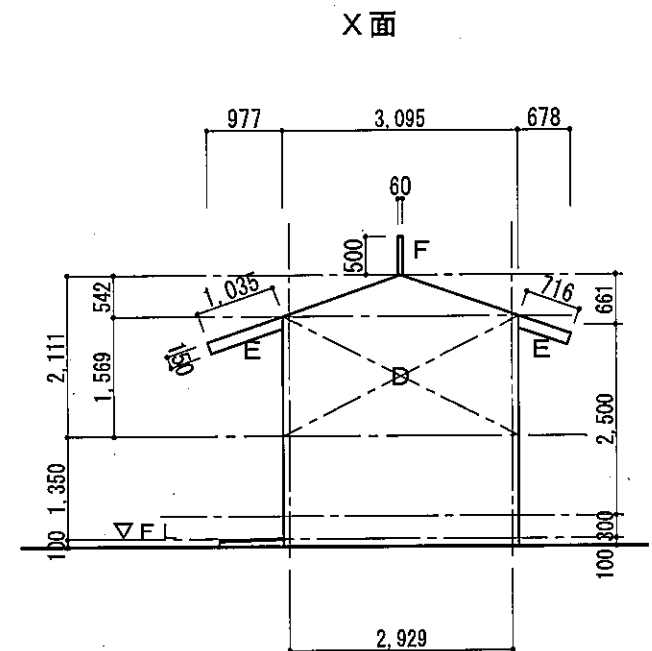
筋違い位置図 S=1/100

軸組のつりあい良い配置の計算表

	Y方向		X方向	
	側端部分 Xa	側端部分 Xb	側端部分 Ya	側端部分 Yb
1階	存在壁量 軸組長さ×箇所×倍率 136×2×2.0 106×1×2.0	存在壁量 軸組長さ×箇所×倍率 136×3×2.0	存在壁量 軸組長さ×箇所×倍率 116×2×2.0 146×2×2.0	存在壁量 軸組長さ×箇所×倍率 116×2×2.0
	合計 756 cm	合計 816 cm	合計 1048 cm	合計 464 cm
	必要壁量 Xaの床面積×係数(表二) 0.7323×10.908=7.988㎡ 7.988×14=111.83	必要壁量 Xbの床面積×係数(表二) 0.7323×10.908=7.988㎡ 7.988×14=111.83	必要壁量 Yaの床面積×係数(表二) 2.929×2.727=7.988㎡ 7.988×14=111.83	必要壁量 Ybの床面積×係数(表二) 2.929×2.727=7.988㎡ 7.988×14=111.83
	壁量充足率 存在壁量÷必要壁量 756÷111.83=6.760	壁量充足率 存在壁量÷必要壁量 816÷111.83=7.297	壁量充足率 存在壁量÷必要壁量 1048÷111.83=9.371	壁量充足率 存在壁量÷必要壁量 464÷111.83=4.149
判定	壁量充足率が両側端部共に1.0を越えているか。 共に、1.0 越える OK → 終了		壁量充足率が両側端部共に1.0を越えているか。 共に、1.0 越える OK → 終了	
	壁率比 左右側端部の壁量充足率の小さい方を大きい方で除した数値が、<0.5>以上であるか。 小さい方 ÷ 大きい方 = 0.704		壁率比 左右側端部の壁量充足率の小さい方を大きい方で除した数値が、<0.5>以上であるか。 小さい方 ÷ 大きい方 = 0.442	



$$\begin{aligned} A & 1.173 \times 11.075 = 12.991 \\ B & 0.938 \times 12.208 = 11.451 \\ C & 0.750 \times 0.500 = 0.375 \\ Y面 見付面積 & 24.817 \Rightarrow 24.82 \text{ ㎡} \end{aligned}$$



$$\begin{aligned} D & (1.569 + 0.542 \div 2) \times 3.095 = 5.695 \\ D & 0.150 \times (1.035 + 0.716) = 0.263 \\ D & 0.500 \times 0.060 = 0.030 \\ X面 見付面積 & 5.988 \Rightarrow 5.99 \text{ ㎡} \end{aligned}$$

設計者

Memo

2026.03

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

木造壁量計算

SCALE
1/100

DATE
2026.03

Job No.
24-022

MAP

No. A-14
/14

1 工事場所 木曾郡大桑村大字野尻 2883-3

建築物名稱	工事類別	構造	階數	延面積 (㎡)	消防設備 設置區一分割分	備考
公共便所	新築	木造	地上1階	31.94		

工 事 種 目	項 目	施 物 別 及 び 量 升			
		トイレ棟			
電 灯 設 備		○	×	×	
動力 設 備	幹線、分岐		×	×	
電 熱 設 備		×	×	×	
蓄 保 暖 設 備		×	×	×	
受 変 電 設 備		×	×	×	
静止形電源設備	直流電源装置	×	×	×	
発 電 設 備		×	×	×	
仮 設 工 事		×	×	×	
構内情報通信網設備	LAN用配管	×	×	×	
構内交換設備	電話設備	×	×	×	
情報表示設備	時計設備	×	×	×	
放送・警報設備		×	×	×	
放送設備		×	×	×	
誘導支援設備	インターホン・トイレ呼び出し装置	○	×	×	
テレビ共同受信設備		×	×	×	
監視カメラ設備		×	×	×	
駐車場管制設備		×	×	×	
防犯・入退室管理設備	予備配管	×	×	×	
自動火災検知設備		×	×	×	
自動閉鎖設備		×	×	×	
非常警報設備	非常放送装置	×	×	×	
ガス漏れ警報設備		×	×	×	
中央監視制御設備		×	×	×	
		×	×	×	
構内配電幹路		×	×	×	
構内通信線路		×	×	×	
昇降機設備		×	×	×	

番 号	国 面 名 称	番 号	国 面 名 称
1		21	
2		22	
3		23	
4		24	
5		25	
6		26	
7		27	
8		28	
9		29	
10		30	
11		31	
12		32	
13		33	
14		34	
15		35	
16		36	
17		37	
18		38	
19		39	
20		40	

項 目	特 記 事 項
① 織 材 等	木工事に使用する放散機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等なものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督官署の承認を受ける。
② 織材の品質・性能証明	使用する織材が、社団法人・公団建設協会が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価等表 設備機材等評価番号」等によって所定の評価を受けている場合は、監督官署への織材の品質及び 性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 木工事の建築物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所定の品質及び性能を有する ものとし、次の(1)から(6)を満たすものとする。
3 化学物質を含有する 建築材料等	(1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板厚層材、MDF、パーティクル ボード、その他の木質織材、ユリア樹脂板、仕上り塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを 放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (2)保溫材、断熱材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて 少ないものとする。 (3)接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない無 揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを 放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (4)塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散 が極めて少ないものとする。 (5)上記(1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他 の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散しないものとは放散量が規制対象外のもの、ホルムアル デヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものを行い、原則として規制対象外 のものを使用するものとする。 ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 また、「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。
	ホルムアルデヒドの放散量 放 散 す る 建 築 材 料
規 制 対 象 外	①JIS及びJASの☆★☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表※のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散 させない塗料等使用
第 三 種	①JIS及びJASの☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の6第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのE〇規格品 ④旧JASのF〇〇規格品

項 目	特 記 事 項																																																										
設計用標準水平地震強度	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th><th rowspan="2">機器類別</th><th colspan="2">特定の施設</th><th colspan="2">一般の施設</th></tr> <tr> <th>重要機器</th><th>一般機器</th><th>重要機器</th><th>一般機器</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">上層階、 屋上及び地盤</td><td>機 界</td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr> <tr> <td>防振支持の機器</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr> <tr> <td>水増機（※1）</td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr> <tr> <td rowspan="4">中 間 階</td><td>機 界</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr> <tr> <td>防振支持の機器</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr> <tr> <td>水増機（※1）</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr> <tr> <td>機 界</td><td>1.0</td><td>0.6</td><td>0.5</td><td>0.4</td></tr> <tr> <td rowspan="3">地下1階</td><td>防振支持の機器</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr> <tr> <td>水増機（※1）</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr> </tbody> </table>	設置場所	機器類別	特定の施設		一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、 屋上及び地盤	機 界	2.0	1.5	1.5	1.0	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水増機（※1）	2.0	1.5	1.5	1.0	中 間 階	機 界	1.5	1.0	1.0	0.6	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水増機（※1）	1.5	1.0	1.0	0.6	機 界	1.0	0.6	0.5	0.4	地下1階	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水増機（※1）	1.5	1.0	1.0	0.6
設置場所	機器類別			特定の施設		一般の施設																																																					
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																						
上層階、 屋上及び地盤	機 界	2.0	1.5	1.5	1.0																																																						
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																						
	水増機（※1）	2.0	1.5	1.5	1.0																																																						
中 間 階	機 界	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																						
	水増機（※1）	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
	機 界	1.0	0.6	0.5	0.4																																																						
地下1階	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																						
	水増機（※1）	1.5	1.0	1.0	0.6																																																						
	(※1) 水増機にはオイルタンク等を含む。																																																										
①重要機器の定義は次のとおり。	・高圧電設備 ・ 高電設備 ・ 高圧電設備 ・ 変圧器電圧調整装置 ・変換機 ・ 自動火災警報受信機 ・ 中央監視装置																																																										
②上層階の定義は次のとおり。	2～6階の場合は最上階、7～9階の場合は上層2階、 10～12階の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。																																																										
(2)設計用指定地震力	設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。																																																										
⑬あと高工アンカー	(1)重要設備は公共施設改修工事標準仕様書（施設工事編）8章の2第8.2.4及び10節による。 (2)上記以外の事項は施設工事改修仕様書6章による。 （引続き試験を ○ 実施する ・ 実施しない ）																																																										
⑭防火区画等の 貫通処理	電管等は、防火区画又は防火上主要な開口部を貫通する場合の施工状況について、 貫通箇所前面から写真撮影し、工事写真として提出する。																																																										
⑮電線・ケーブル	(1) EEE-EFF は室外線による劣化を抑制する性能を持たせ、「3494」(註 EEE-EFF)と 表記されたものを使用する。 (2) EEE-UF7 は JIS K 5150「線形制御配線システム」に準じ、絶縁材料及びシースに JIS規格によるULケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの。																																																										
21 予 留 配 管	道も分電盤からの上り予留配管は、予留の配線用遮断器4個以下の場合は(25)を1本 50mm以上の場合は(25)を2本、天井まで上り上げる。																																																										
22 呼 び 線	長さ1m以上の入線しない電線管には、1.2mm以上のビニル被覆保護管を挿入する。																																																										
23 金属製電線管の施設	下記の高出配管は必要を行う。 ・ 屋 外 ・ 屋 内 ()																																																										
24 埋め戻し土	・ 埋戻し A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 管の下部は50mm以上砂を敷きならし、管の上側100mm以上砂を用いて締め固める																																																										
25 施設発生時の処理	○ 海外搬出処理 ・ 国内の指定場所へ搬出処理																																																										
26 ケーブル施設	(1) 地中経路には、ケーブル保護管をもちいる。 ○ 鉄製 ○ コンクリート製 (2) 低圧地中配線にあっても地中線保護設備シートを敷設する。																																																										
27 プルボックス	(1) 配線設備が50mmを超える場合は、地中線保護設備シートは2条以上敷設する。 (2) 露出するプルボックスの本体及びふたの仕上げは、メラミン焼付塗装とする。																																																										
28 フラッシュプレート	図面に特記するもの及び特異なものを除き ○ 金属製 ・ 樹脂製																																																										
29 プレートの用途表示	プルボックス、ジョイントボックス及び保護管を固定しないプレートには、用途を明示 した簡略図をつける。																																																										
30 配 線 器 具	クンプラスイッチは運用形とする。 壁付けコンセント(2P15A)は原則として運用形とする。ただし、2口の場合は横式を 使用してよい。また(2P15A)以外はすべてキャップ付とする。 ・ 直付（ビス止め）型上下式（・ 銅合金製 ・ アルミ製）とする ・ 直付（ビス止め）型壁面上下式（銅合金製）とする																																																										
31 フロアコンセント	本工事の動力制御盤より別添電動機等への配線の接続は本工事とする。																																																										
32 振動への配慮	(1) 非常用照明の照度測定は設置後直中に行い、監督職員に報告する。																																																										
33 照 度 測 定	(2) 学校施設における室内照度測定（測定装置： 照度計、測定基準： 照度計） ※装置の精度は、1級基準となり、1級基準となるが、照度測定面が所定測定面																																																										
34 装 飾	(1) 分電盤等の四囲ホルダーに、単純結線図・絶縁抵抗測定表・接地抵抗測定表を 収納する。																																																										
35 グリーン購入の推進	(2) 端子盤には、検査表・結線表を備え付ける。 長野県グリーン購入推進方針に基づく調達項目 ＜資料＞ ・ 照明制御システム ・ 変圧機 ・ () ＜施設設備＞ ・ 警報装置・防犯設備・防犯設備 ・ 防犯設備・防犯設備 工事区分表（令和 年）による。ただしこれより厳しい場合は監督職員と協議する。																																																										
36 施工等又は他工程 との取り合い	関係者の各関係者及び電子納品については、別添「特記仕様書（共通事項）」による。 （長野県公式ホームページ「電子入札システム」に掲載される、当入札公告の取付図書）																																																										
37 その他及び電子納品																																																											

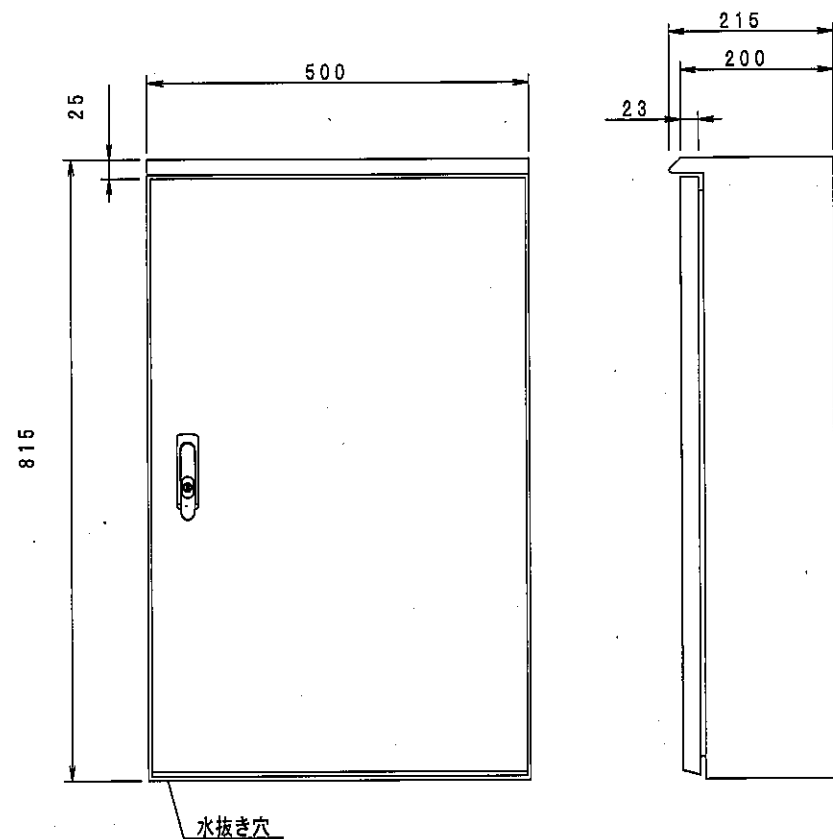
番 別 提 出 物	一 定 提 出 物
① 完成図 ・ 原図（A1版、A3版 ケース入り） ・ 隔置（A2 2つ折り製本 1部） ・ マイクロフィルム （アパーチュアカード貼付 台紙は黄色） ② CADデータ	⑤ 検査完成図 ⑥ 工事写真 ⑦ 完成写真 ⑧ 工事記録書（打合せ簿、工事日記、点検書） ⑨ 機材の試験成績書 ⑩ 溶工の試験成績書 ⑪ 社内試験成績書 ⑫ 発注材料処理報告書 （資機材処理実施書・運搬及び処理の委託契約書の写し・マニフェストの写し、フロー図）
2 設計図 ・ マイクロフィルム （アパーチュアカード貼付 台紙は黄色）	⑬ 納入品一覧表 ⑭ 官公署手帳、検査書（管理用正本、写し） ⑮ 供金に関する資料（取扱い説明書も含む）
④ 納入品 ・ 予備品 ・ ハンドホールフック、ジャッキ ・ 風扇の網 ・	

・	ハンドホール No.ー	1,500×1,500×1,500 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,740以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	1,200×1,200×1,500 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,700以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	1,000×1,000×1,400 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,600以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	1,000×1,000×1,100 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,500以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	1,000×1,000×900 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,050以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	900×900×1,100 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,260以上 (アルミ梯子付)
・	ハンドホール No.ー	900×900×900 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	底部 GL-1,060以上 (既製足場付)
・	ハンドホール No.ー	600×600×680 蓋 WPM-60A (Eマーク入)	(既製足場付)
・	ハンドホール No.ー	450×450×680 蓋 WPM-45B (Eマーク入)	※縦横等長等辺の通行の恐れがない場所、 収容ケーブルが少くない場所に必要な

・ A 種接地	鋼板厚 1.5 $\times$ 600 $\times$ 800 リード端子付 堀削埋置中心派止	補助接地棒 (規格式 10 ϕ $\times$ 1.500) 2 本 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
・ B 種接地	鋼板厚 1.5 $\times$ 600 $\times$ 800 リード端子付 堀削埋置中心派止	補助接地棒 (規格式 10 ϕ $\times$ 1.500) 2 本 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
・ C 種接地	鋼板厚 1.5 $\times$ 300 $\times$ 300 リード端子付 堀削埋置中心派止	補助接地棒 (規格式 10 ϕ $\times$ 1.500) 1.5 本 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)
○ D 種接地	接地棒 (10 ϕ $\times$ 1.500)	リード端子付 打ち込み式 埋設棒 (黄銅製又はステンレス製)

	名 称	測 点	取付高(m)		名 称	測 点	取付高(m)
共通	取引用計器 引込閉鎖器	地上～上端	2,000	時計・ 検印	警報形時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
	警電盤	地上～中心	1,800		時計針	"	"
		床上～中心	1,500		警報形スピーカー アラームホーン	"	" (天井高)×0.9 (天井高)×0.9
電	分電盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)	照	表示盤	床上～中心	(天井高)×0.9
	タンブラスイッチ	"	1,300		床付発信器	"	1,300
	" (昇降専用)	"	1,400		ベル	"	(天井高)×0.9
	コンセント(一般)	"	300		ブザー	"	(天井高)×0.9
	" (和室)	"	150		押ボタン	"	1,300
	" (便所等)	"	500		" (昇降専用押和)	"	900
	" (台上)	台上～中心	150		角形表示灯	"	2,000
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100		復帰ボタン	"	1,800
	" (落場)	"	2,500	イン ター ホー ン	警付インターホン	床上～中心	1,500
	" (鎖上)	鎖場～中心	150		" (昇降専用)	"	1,100
灯	強制口開灯灯	床上～下端	1,500以上		警付位置ボックス (縦付インターホンを除く)	"	300
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,900以下		" (一般)	"	150
					" (和室)	"	150
				テレ ビ機 受信 設備	警報形警報 アラーム	床上～中心	(天井高)×0.9
動力	警報形制御盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)		アラーム アラーム	"	300 150
	手元開閉器	"	1,800	火 災	受信機	床上～操作部	800～1,500
	操作スイッチ	"	1,300		副受信機	"	800～1,500
電 話	室内端子室 (廊下・室内)	床上～下端	300		警報形警報 アラーム	床上～中心	800～1,500
	中間端子室 (EPS・電気室)	床上～中心	1,500	発 光 機	アラーム	"	800～1,500
	集合用警報 警付アラーム ボックス(一般)	"	(天井高)×0.9		アラーム	"	(天井高)×0.9
	" (和室)	"	300 150		火災表示灯	"	(天井高)×0.8
				知			

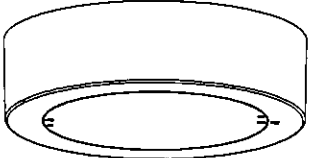
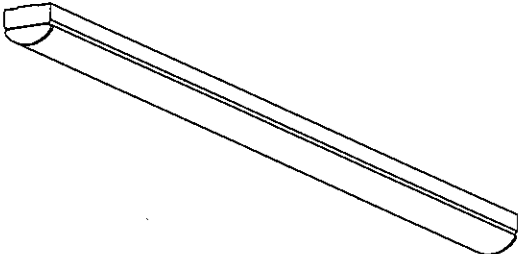
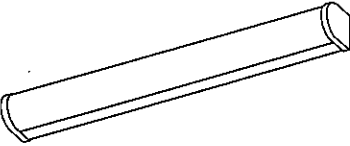
[illegible]

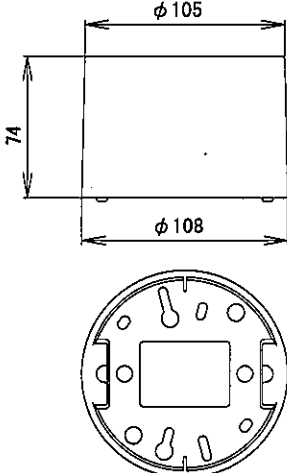
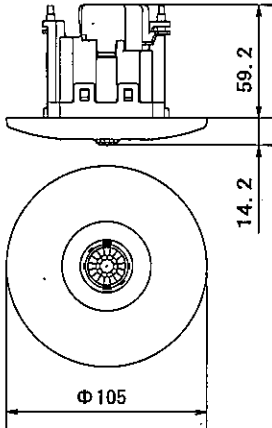
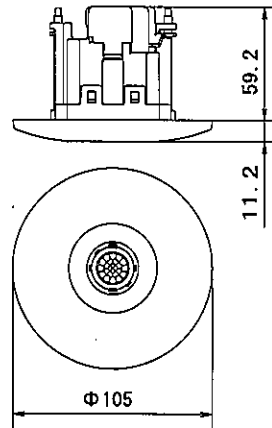
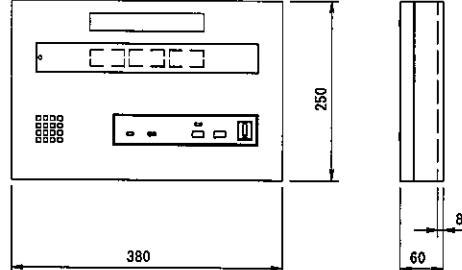
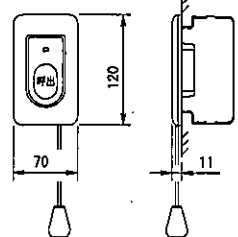


参考盤寸法表

盤 名	形 状	参考寸法			備考
		W	H	D	
L - 1	壁掛 屋外防水 鋼板製	500	800	200	指定色 メラミン焼付塗装

盤名称	電灯盤	回路 番号	負荷名称	容量 (VA)	電圧 (V)	極数 (P)	種別	配線遮断器 (AF/AT)	主 回路	TM 回路	R Y	警 報 出 力	備考
電灯盤 L-1	電源 1φ3W210/105V 8Sq — /// — //X MCB 3P2E 50AF 30AT 中性線欠損保護付き 5,492VA												
		1	屋外照明	23	100	2	ELB	30/20	A				
		2	手洗い照明	164	100	2	ELB	30/20	A				
		3	呼出装置電源	13	100	2	ELB	30/20	A				
		4	多目的便所コンセント	656	100	2	ELB	30/20	A				
		5	女子便所コンセント	712	100	2	ELB	30/20	A				
		6	予備	0	100	2	ELB	30/20	A				
		7	男子便所コンセント	656	100	2	ELB	30/20	A				
		8	パネルヒーター	1000	100	2	ELB	30/20	A				
		9	パネルヒーター	1375	100	2	ELB	30/20	A				
		10	パネルヒーター	1375	100	2	ELB	30/20	A				
		11	予備	0	100	2	ELB	30/20	A				
		12	予備	0	100	2	ELB	30/20	A				

A	LED小型シーリングライト	B	LEDベースライト	C	LEDミラー灯
 LEDG87003WW-LS 消費電力：7.8W (AC100V時) 器具光束：840lm 白熱灯器具100Wクラス1灯 相関色温度：3500K 平均演色評価数 (Ra) : 94 器具サイズ：Φ148×高さ41 定格電圧：AC100V 寿命：40,000時間 質量：0.4kg 棚下・壁面兼用 傾斜天井取付可 LED小形シーリングライト		 LEKT407404HWW-LS9 LED (温白色) 寸法：幅70×1,223×高さ53 本体：鋼板 白 LEDバー：ポリカーボネート 乳白 定格電圧：AC100V~242V 消費電力：20.4W (AC200V時) 器具光束：3,600lm 固有エネルギー消費効率：176.4lm/W (AC200V時) 寿命：40,000時間 (光束維持率90%) 相関色温度：3500K 平均演色評価数 (Ra) : 83 非調光 質量：1.5kg ◆TENGOO直付40形W70		 LEDB83013 推奨ランプ：LDM20SSL/10/8-01組み合わせ時 消費電力：10.0W (AC200V時) 器具光束：800lm 天井・壁面兼用、縦向取付不可 直管形蛍光灯FL20形1灯 相関色温度：3000K 平均演色評価数 (Ra) : 83 器具サイズ：幅75×618×高さ64 定格電圧：AC100V~242V 質量：0.7kg 入力電流：0.053A (AC200V時) LEDブラケットランプ別売	

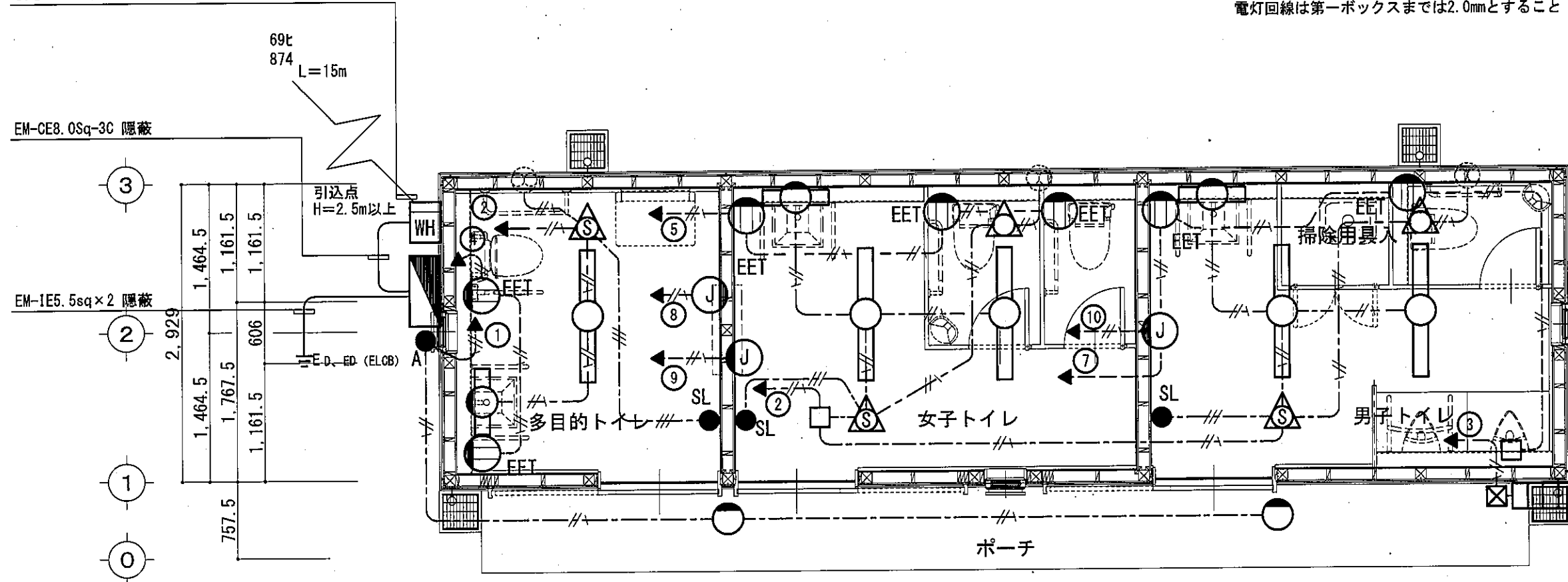
天井取付 熱線センサ付自動スイッチ用露出取付カバー		天井取付 熱線センサ付自動スイッチ		天井取付 熱線センサ付自動スイッチ		3窓用呼出表示器		呼出ボタン(引きひも付)																	
																									
WTK2091		WTK24818		WTK29318		<table border="1"><tr><td>電源電圧</td><td>AC100V 50/60Hz (内部電源DC12V)</td></tr><tr><td>形状</td><td>壁取付形</td></tr><tr><td>材質</td><td>SPCC t1.2</td></tr><tr><td>窓数</td><td>3窓</td></tr><tr><td>表示方式</td><td>呼出音と表示窓点灯</td></tr></table>		電源電圧	AC100V 50/60Hz (内部電源DC12V)	形状	壁取付形	材質	SPCC t1.2	窓数	3窓	表示方式	呼出音と表示窓点灯	<table border="1"><tr><td>形状</td><td>壁埋込型(JIS1種用スイッチボックス)</td></tr><tr><td>材質</td><td>自己消火性樹脂</td></tr><tr><td>備考</td><td>引きひも式、押ボタン式両用</td></tr></table>		形状	壁埋込型(JIS1種用スイッチボックス)	材質	自己消火性樹脂	備考	引きひも式、押ボタン式両用
電源電圧	AC100V 50/60Hz (内部電源DC12V)																								
形状	壁取付形																								
材質	SPCC t1.2																								
窓数	3窓																								
表示方式	呼出音と表示窓点灯																								
形状	壁埋込型(JIS1種用スイッチボックス)																								
材質	自己消火性樹脂																								
備考	引きひも式、押ボタン式両用																								
規格 8A 100V AC		規格 1A 100V AC																							

凡例

	電力計ボックス		ブルボックス SS200x200x100 VE WP		熱線センサー親機換気扇連動
	電灯盤 (L-1)		アウトレットボックス 鋼板製 中浅		熱線センサー子機換気扇連動
	呼出装置3窓		EET 埋込コンセント2P15Ax1 E, ET付		換気扇 電源接続
	LEDブラケット露出		パネルヒーター用ノズルプレート		EM-EEF1.6-2C 木部露出
	LEDベースライト		自動点滅器 電子式100V 3A		EM-EEF1.6-3C 木部露出
	LEDミラーライト		熱線センサー切替スイッチ		EM-EEF2.0-3C (PF22) 床隠蔽
			E ED (ELCB) D種接地工事		

EM-CE8.0Sq-3C 隠蔽 防雨入線カバー
引き止め金具、DV引き止め碍子見込む

壁面内は隠蔽配線とする
電灯回線は第一ボックスまでは2.0mmとすること



1,161.5	1,161.5	1,161.5
606	1,161.5	1,464.5
757.5	1,767.5	2,929

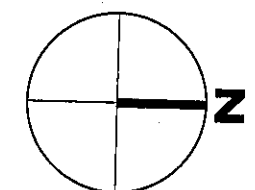
1,363.5	1,363.5	1,363.5	1,060.5	303	303	1,060.5	1,363.5	1,363.5	1,363.5
2,727	4,090.5	4,090.5							
10,908									

多目的トイレ
B x 1
C x 1

女子トイレ
B x 2
C x 1

男子トイレ
B x 2
C x 1

屋外
A x 2



設計者

Memo
2026.03

CONSTRUCTION NAME

阿寺溪谷公衆トイレ建築工事

MAP NAME

電灯・コンセント設備図

SCALE
1/50

DATE
2026.03

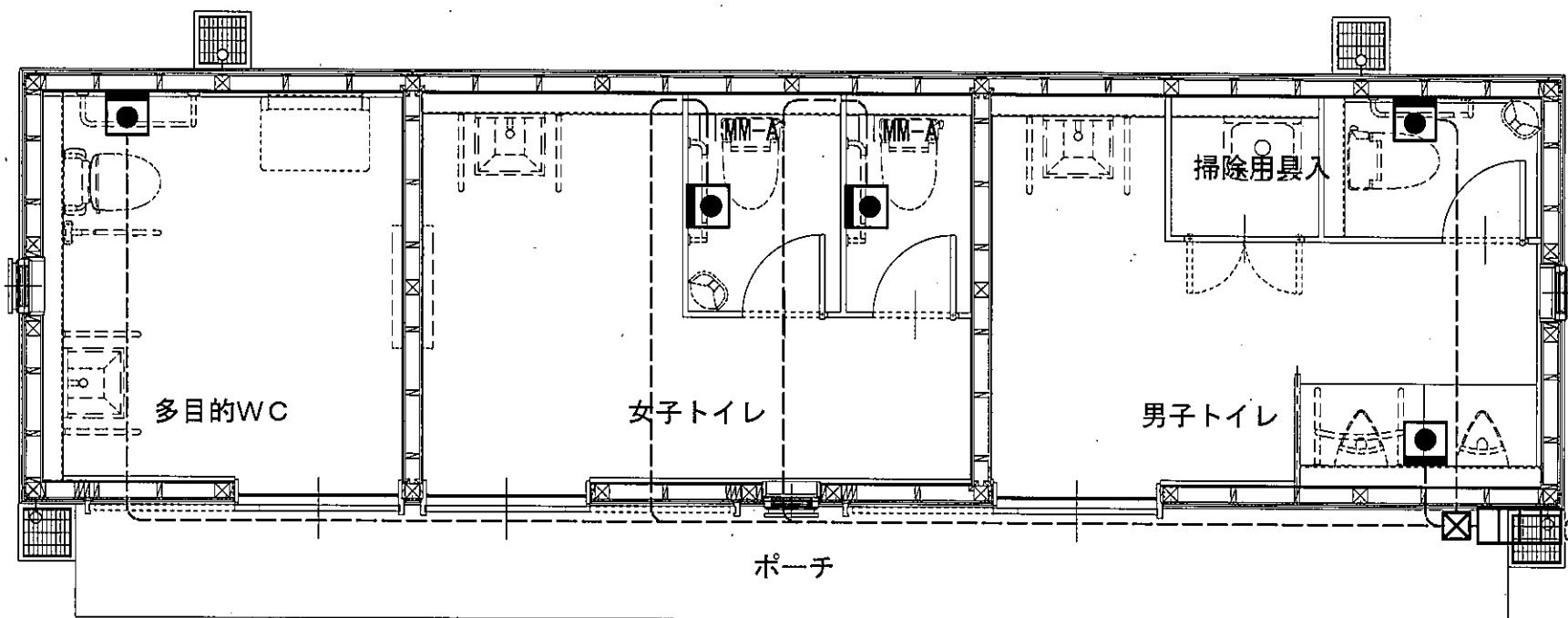
Job No.
24-022

MAP

No. E-04

10,908							
2,727		4,090.5			4,090.5		
909	1,818	1,363.5	1,363.5	1,363.5	1,363.5	1,818	909

3	2,929		1,464.5	1,161.5	1,161.5
2	1,464.5	1,767.5	606	1,161.5	
1	757.5	1,161.5			
0					



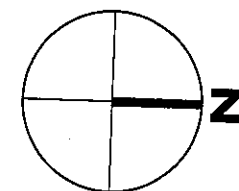
	1,161.5	1,161.5	1,464.5	2,929
	606	1,767.5	1,161.5	
	1,161.5	1,464.5		
	757.5			

凡例

	呼出装置3窓
	呼出ボタン引き紐付
	ブルボックス SS200x200x100 VE WP
	EM-AE1.2-2C (PF16) 床隠蔽
	MM-A EM-AE1.2-2C MM-A

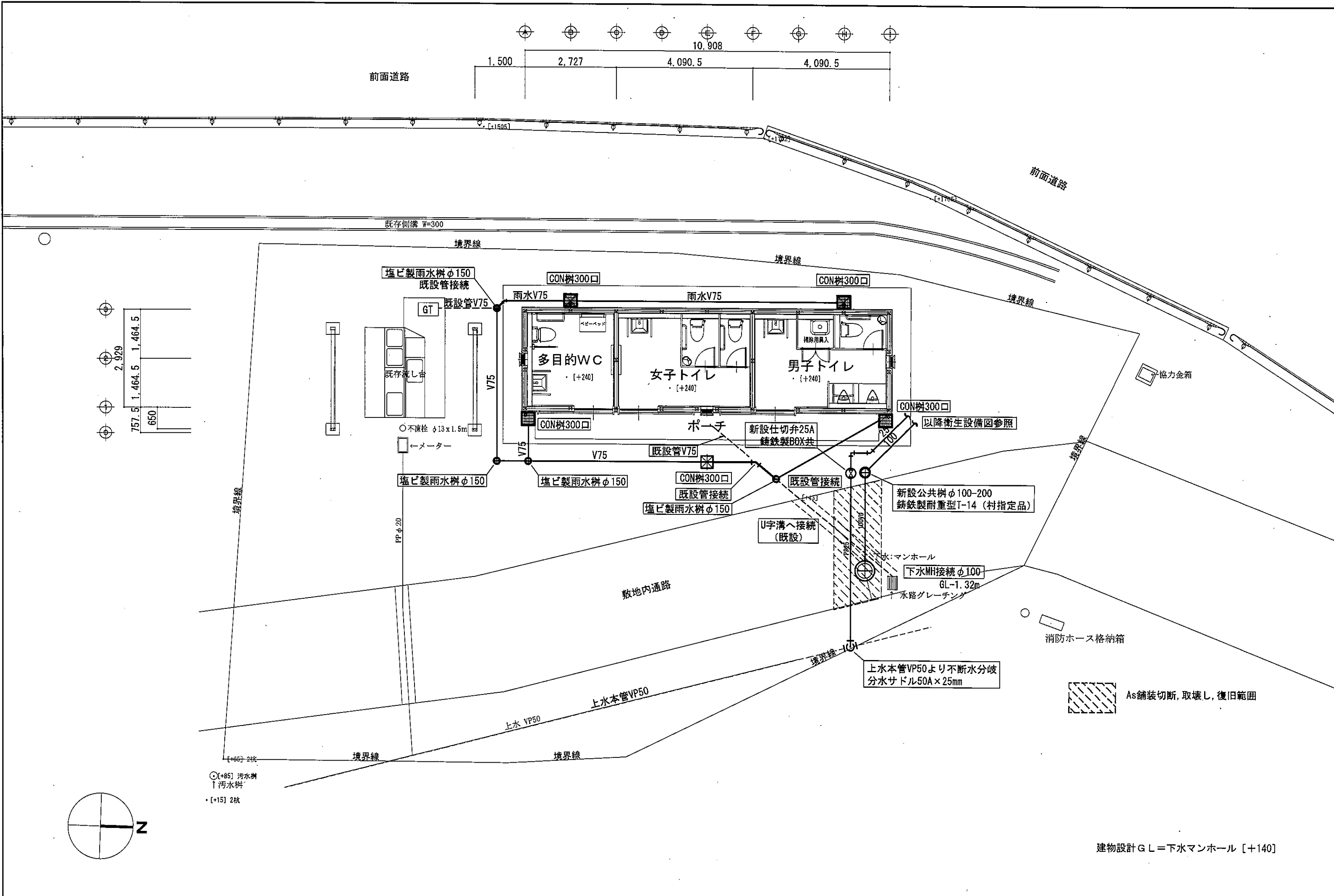
1,363.5	1,363.5	1,363.5	1,060.5	303	303	1,060.5	1,363.5	1,363.5	1,363.5
2,727		4,090.5					4,090.5		
10,908									

A	B	C	D	E	F	G	H	I
---	---	---	---	---	---	---	---	---



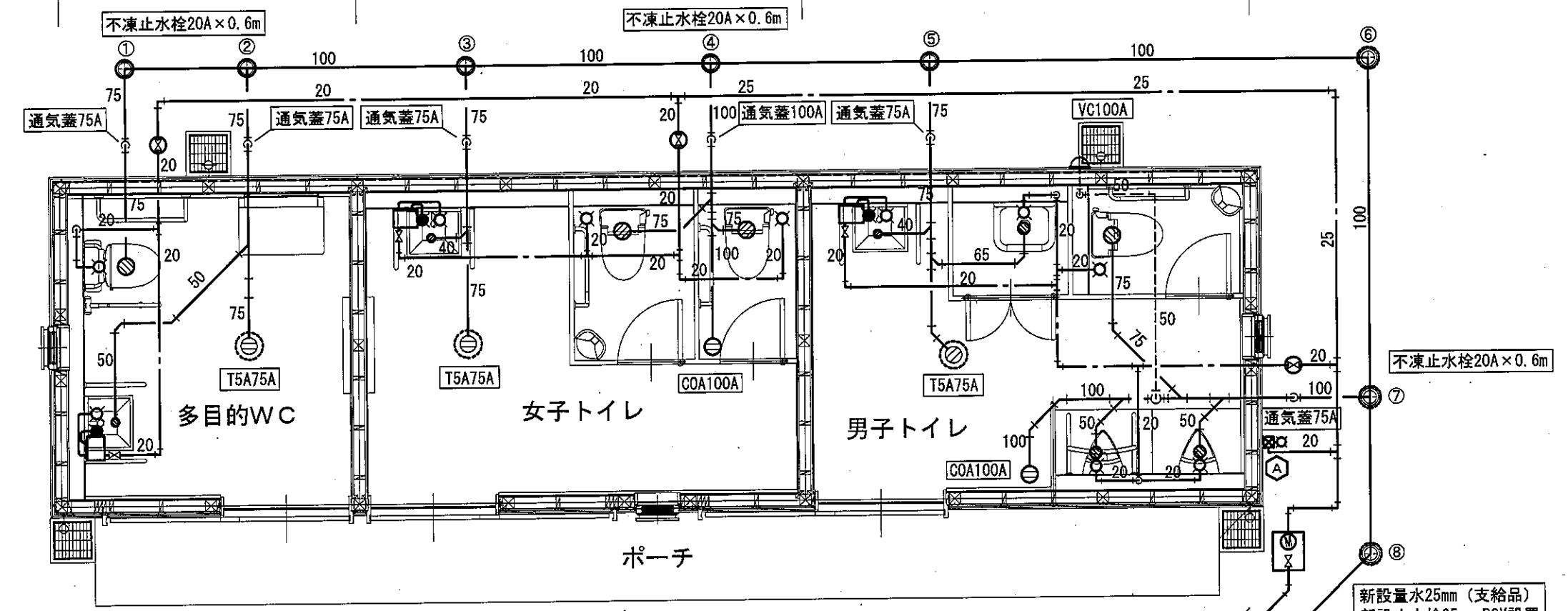
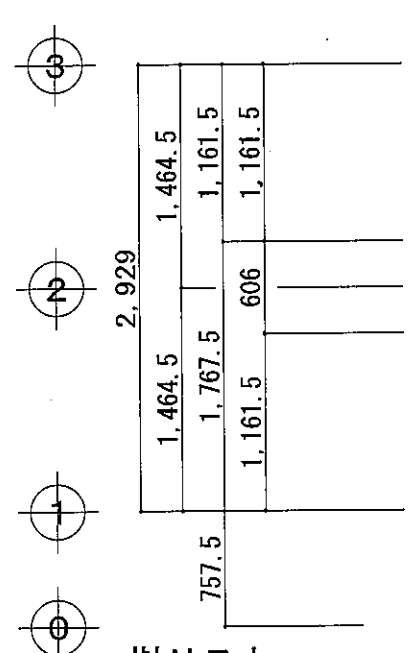
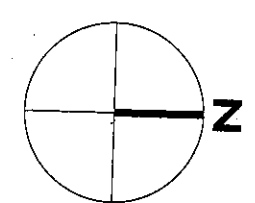
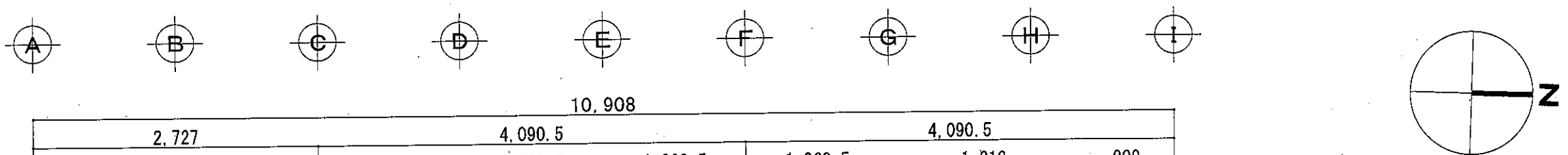
衛生器具表

名 称	参 考 型 番 (TOTO)	仕 様 ・ 付 属 品	男子 トイレ	女子 トイレ	多 目的 トイレ	計
洋風大便器 (車椅子対応)	CFS498B HE35JR・THE24 TCF226V86 EWC283CR・YH702	便器・フラッシュタンク式 リモコン便器洗浄ユニット・スイッチボックス 暖房便座(蓋なし) 背もたれ・二連式紙巻器 その他取付金具付属品一式			1	1
洋風大便器 (一般)	CFS498B TCF226V86 YH702	便器・フラッシュタンク式 暖房便座(蓋なし) 二連式紙巻器 その他取付金具付属品一式	1	2		3
小便器	UFS900R	壁掛形・自動洗浄センサー付(AC100V)	2			2
壁掛式洗面器	LSG135AAR・RHE710R	自動混合水栓(AC100V)・止水栓・吸気弁 他標準付属品一式	1	1	1	3
掃除流し	SK22A・T28AUNH13	横水栓(ホース接続差込式)・Sトラップ 他標準付属品一式			1	1
手摺	T112CL11	L型 700×700 樹脂被覆 前出寸法230mm			1	1
手摺	T112HK7	はね上げ式 L=700 樹脂被覆			1	1
手摺	T112CU2	小便器用 樹脂被覆	1			1
ベビーシート	YKA25N	取付金具共			1	1
ベビーチェア	YKA15S	取付金具共	1	1		2
化粧鏡	YM6090F	参考寸法: 600×900 耐食	1	1	1	3
便座除菌クリーナー	サラヤ MD-300B-PHJ + MD-300専用	サラヤ 便座クリーナー用ディスペンサー + カートリッジボトル 250mL スプレー用 空容器 同等品	1	2	1	4
便座除菌剤用 薬液	サラヤ 型番: 4987696502741	サラヤ 便座除菌クリーナー 便座きれいくんV 5L 同等品				1
パネルヒーター	NY-1375 (PH-1)	壁掛型 暖房能力: 1.375kw 4950KJ/h 1φ100 消費電力: 1.375kw			1	1
パネルヒーター	NZ-1500 (PH-2)	壁掛型 暖房能力: 1.5kw 5400KJ/h 1φ100 消費電力: 1.5kw	1	1		2



建物設計GL=下水マンホール [+140]

		設計者		Memo	CONSTRUCTION NAME	MAP NAME	SCALE		MAP
					2026.03		1/100		
							DATE	Job No.	
							2026.03	24-022	
					阿寺溪谷公衆トイレ建築工事	屋外衛生設備図			No. M-02



樹リスト

番号	樹の種類	周辺GL-管低高	樹蓋の仕様
樹記号			備考
①	小口径植木 100-150 90L	GL-510 勾配 2.0/100	樹脂製蓋
②	小口径植木 100-150×75 UT	GL-530	樹脂製蓋
③	小口径植木 100-150×75 UT	GL-590	樹脂製蓋
④	小口径植木 100-150×100 45YS	GL-640 GL-670	樹脂製蓋
⑤	小口径植木 100-150×75 UT	GL-710	樹脂製蓋
⑥	小口径植木 100-150 90L	GL-800	鉄製耐重蓋 T-8型
⑦	小口径植木 100-150×100 45YS	GL-870 GL-900	鉄製耐重蓋 T-8型
⑧	小口径植木 100-150 45L	GL-920	鉄製耐重蓋 T-8型
⑨	小口径植木 100-200×100 公共樹	GL-1000	鉄製耐重蓋 T-8型

屋外衛生設備図 1:50

水抜栓リスト

記号	名称	仕様	数量
Ⓐ	不凍水栓柱	15A L=1500 アルミ化粧カバー	1

凡例

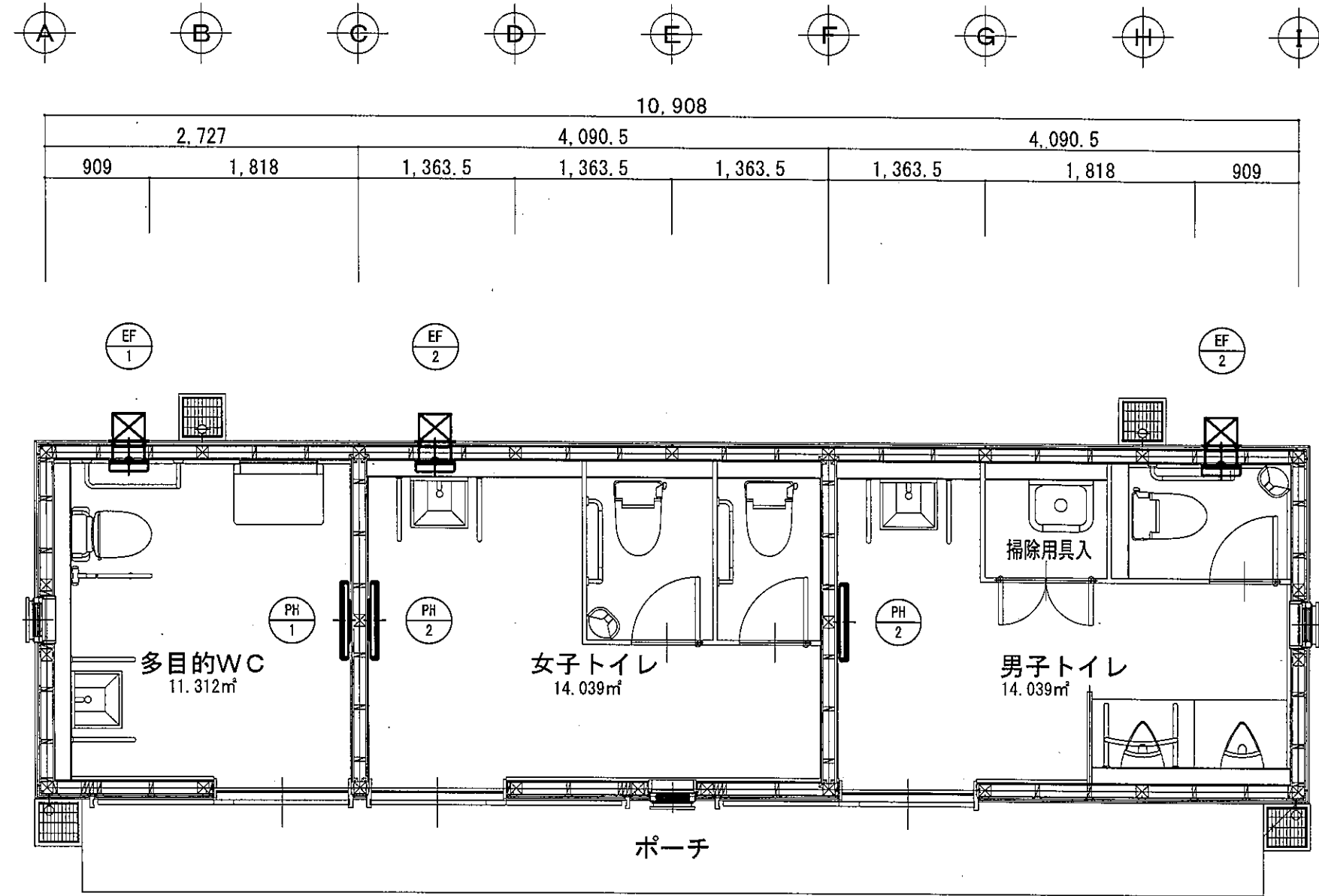
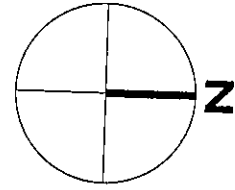
記号	名称	<適用>	仕様
---	給水管	屋外埋設	水道用ポリエチレン二層管 JIS K 6762 PP
		不凍栓以降土中及び土間	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 116 VD
		屋内一般	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 116 VB
—	屋内雑排水管	一般排水	硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 VP
—	屋内汚水排水管	一般排水	硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 VP
—	屋外排水管		硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 VP
—	屋外排水管	下水取出部分	硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 VU

給水管埋設深さは700mmとする

以降屋外衛生設備図参照

耐重型鉄製蓋φ150 T-8

新設量水25mm (支給品)
新設止水栓25mm, BOX設置



屋外衛生設備図 1 : 50

換気機器表														
機器番号	機器名称	形 式	参考型番	台数	ダクト寸法	送風量 (有効換気量) m3/h	機外静圧	消費電力		付 属 品				備 考
					(mm)		(Pa)	相	(W)	24時間 運転	SUS製 ウェザー カバー	SUS製 深形 フード (防虫網)	その他	
EF-1	有圧換気扇	低騒音タイプ	EFG-20KS92-W	1	250□	500	**	1	20.0		○			取付枠・SW
EF-2	有圧換気扇	低騒音タイプ	EFG-20KS92-W	2	250□	600	**	1	20.0		○			取付枠・SW

機械換気設備計算書(一般換気)												
階	室名	床面積	居室の天井	目的	必要換気回数	有効換気量	設計換気量	換気種別			対象送風機	送風量
		Af	高さ h		n	Vr=n・Af・h		第1種	第2種	第3種		
					(回/h)						記号	(m ³ /h)
1	多目的室	11.312	2.6	臭気・湿気対策	15	441.2	460			○	EF-1	600
1	男子トイレ	14.039	2.6	臭気・湿気対策	15	547.6	560			○	EF-2	600
1	多目的トイレ	14.039	2.6	臭気・湿気対策	15	547.6	560			○	EF-2	600

